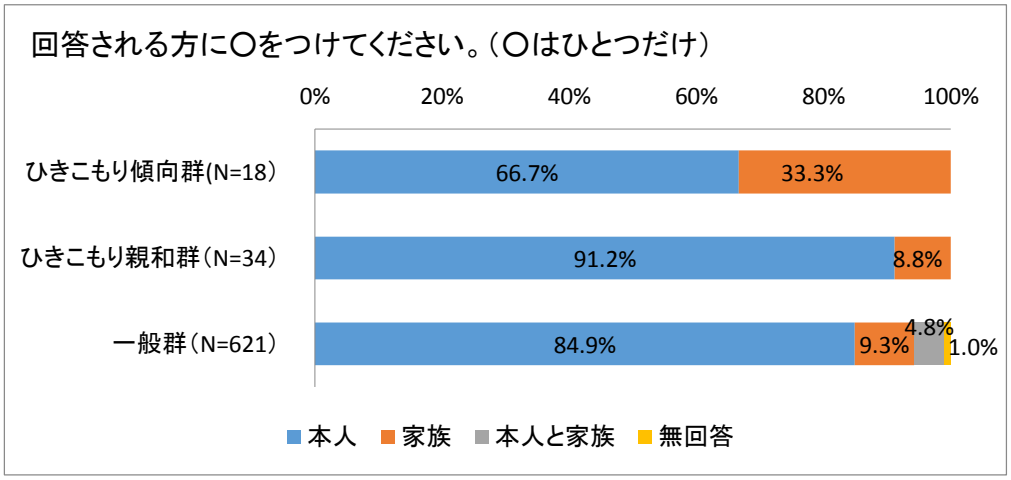
Ⅳ　調　査　の　結　果

（１）若者の意識に関する調査

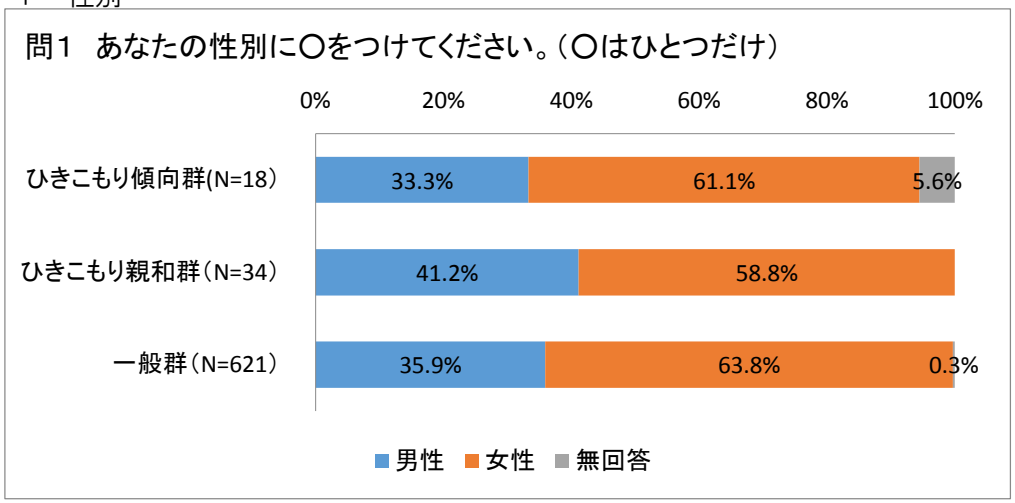
１　基本属性

アンケート回答者欄



回答者は、ひきこもり傾向群では、「本人」66.7%、「家族」33.3%、「本人と家族」0%、ひきこもり親和群では、「本人」91.2%、「家族」8.8%、「本人と家族」0%、一般群では、「本人」84.9%、「家族」9.3%、「本人と家族」4.8%であった。ひきこもり傾向群は、他の群と比べて家族による回答が多く、ひきこもり親和群は本人による回答が多い傾向が見られた。

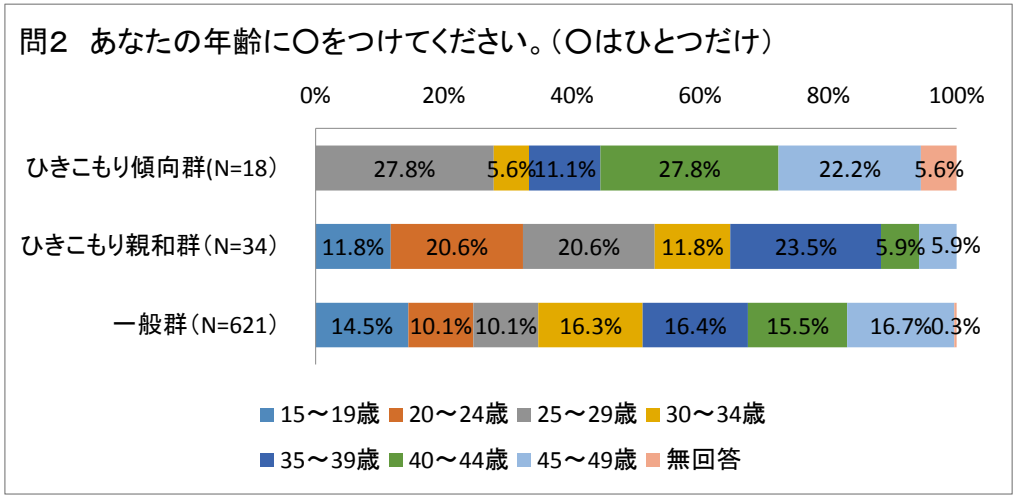
１　性別



回答者の性別は、ひきこもり傾向群は「男性」33.3%、「女性」61.1%、ひきこもり親和群では、「男性」41.2%、「女性」58.8%、一般群では「男性」35.9%、「女性」63.8%であった。ひきこもり傾向群及びひきこもり親和群、一般群いずれも女性が多い傾向が見られた。

＊ひきこもり群Aとひきこもり群Bとの比較では、ひきこもり群Ａは「男性」71.4%、「女性」28.6%、ひきこもり群Ｂでは、「男性」9.1%、「女性」81.8%であった。ひきこもり群Ａは「男性」が約7割、ひきこもり群Ｂでは、女性が約8割を占める結果となった。ひきこもり傾向群に女性が多いのは、ひきこもり群Bの女性81.8%の影響を受けたものと思われる。

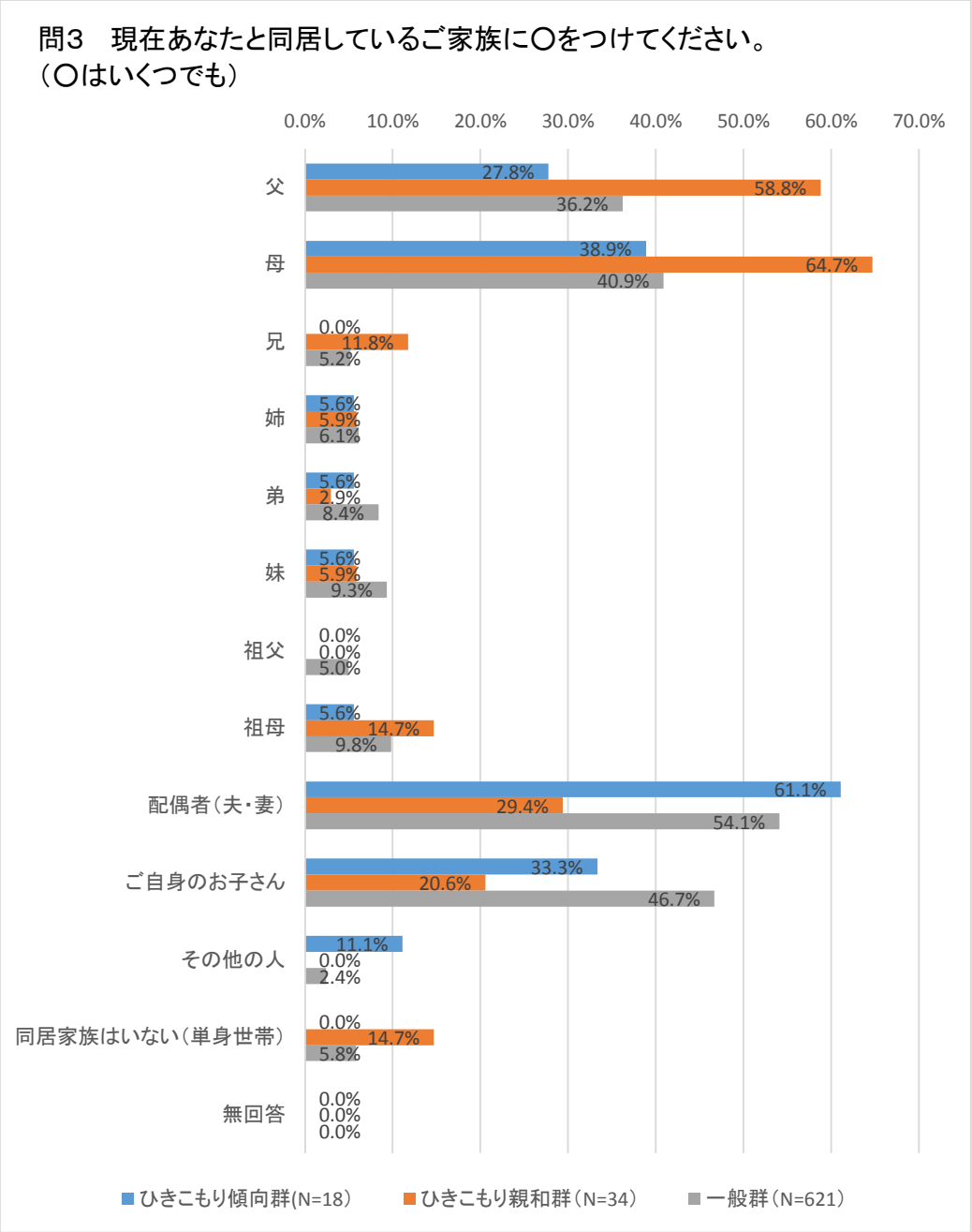
２　年齢



回答者の年齢はひきこもり傾向群では、「15歳～19歳」及び「20歳～24歳」0%、「25歳～29歳」27.8%、「30歳～34歳」5.6%、「35歳～39歳」11.1%、「40歳～44歳」27.8%、「45歳～49歳」22.2%であった。ひきこもり親和群では、「15歳～19歳」11.8%、「20歳～24歳」20.6%、「25歳～29歳」20.6%、「30歳～34歳」11.8%、「35歳～39歳」23.5%、「40歳～44歳」5.9%、「45歳～49歳」5.9%であった。一般群では、「15歳～19歳」14.5%、「20歳～24歳」10.1%、「25歳～29歳」10.1%、「30歳～34歳」16.3%、「35歳～39歳」16.4%、「40歳～44歳」15.5%、「45歳～49歳」16.7%であった。特にひきこもり傾向群は40代が最も多く、次いで20代の層に多い傾向が見られた。また、ひきこもり親和群では、20代及び30代が全体の約75%を占めていた。

＊ひきこもり群Aとひきこもり群Bとの比較では、ひきこもり群Ａでは、「25歳～29歳」28.6%、「40歳～44歳」28.6%、「45歳～49歳」28.6%であった。ひきこもり群Ｂでは、「25歳～29歳」27.3%、「30歳～34歳」9.1%、「35歳～39歳」18.2%、「40歳～44歳」27.3%、「45歳～49歳」18.2%であった。特にひきこもり群Ａでは、40代が57.2%と最も多く、次いで20代の層に多い傾向が見られた。また、ひきこもり群Ｂでは、20代・30代がいずれも27.3%、40代は45.5%となった。

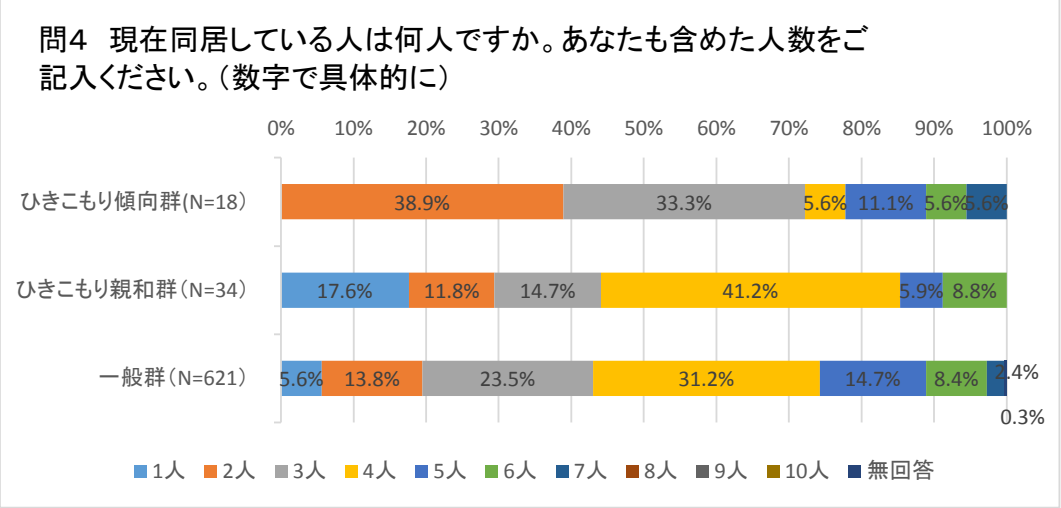
3　同居家族



同居家族について聞いたところ、ひきこもり傾向群は配偶者（夫・妻）との同居が61.1%と多い、ひきこもり親和群は母親との同居が64.7%、次いで父親との同居が58.8%と多い。一般群は配偶者（夫・妻）との同居が54.1%、子どもとの同居が46.7%と多い。ひきこもり傾向群は、配偶者（夫・妻）との同居率が高く、結婚している者が多い傾向にある。

＊ひきこもり群Aとひきこもり群Bとの比較では、ひきこもり群Ａは母親との同居が57.1%、次いで配偶者（夫・妻）との同居が42.9%と多い、ひきこもり群Ｂは配偶者（夫・妻）との同居が72.7%、次いでご自身のお子さんとの同居が45.5%と多い。ひきこもり群Ａは、母親や配偶者（夫・妻）との同居率が高く、ひきこもり群Ｂは配偶者（夫・妻）や子どもとの同居率が高い。ひきこもり傾向群に配偶者（夫・妻）や子どもとの同居が多かったのは、特にひきこもり群Ｂに配偶者（夫・妻）や子どもとの同居が多かったことが影響したと思われる。また、母親との同居が予想以上に低かったのは、ひきこもり群Ａは57.1%と最も多かったのに対し、ひきこもり群Ｂが27.3%と低くかったためと推測される。

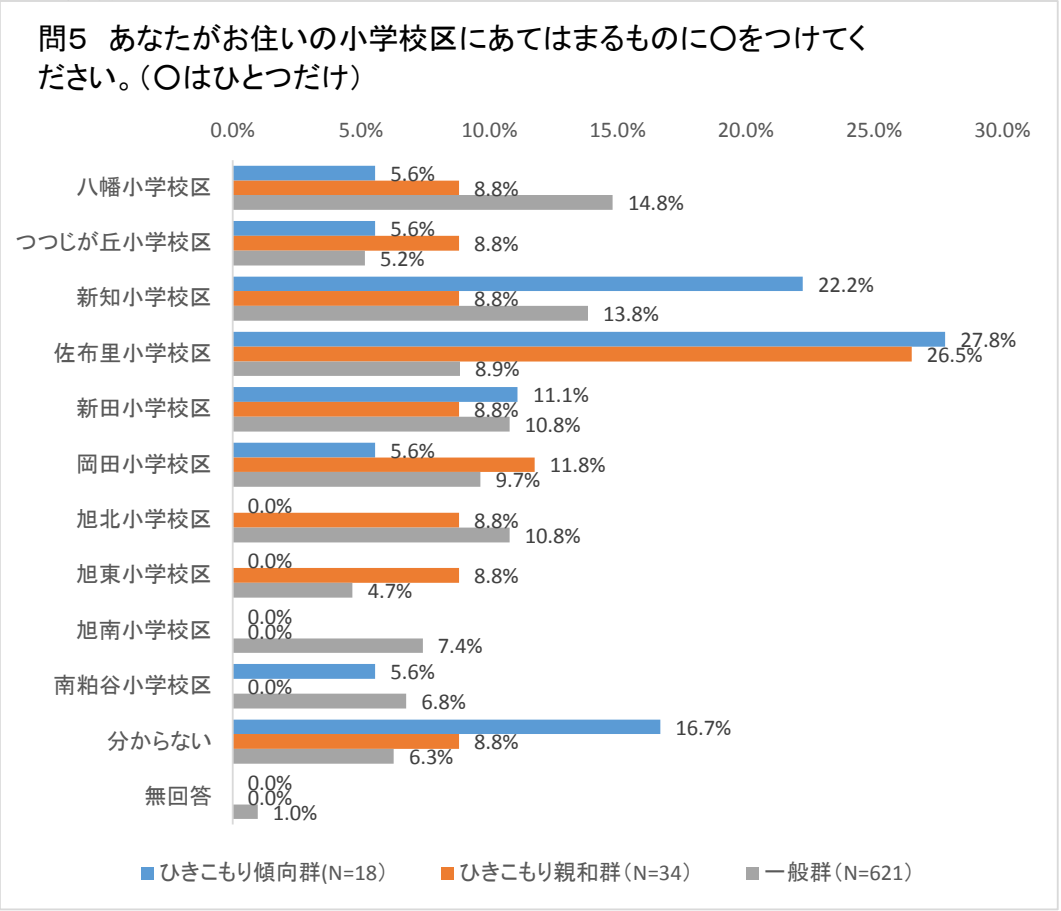
４　同居人数



同居人数はひきこもり傾向群は２～３人が多く、ひきこもり親和群と一般群は３～４人が多くなっている。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａは２人が57.1%、３人が28.6%、７人が14.3%、ひきこもり群Ｂは２人が27.3%、３人が36.4%、４人が9.1%、５人が18.2%、６人が9.1%となっている。

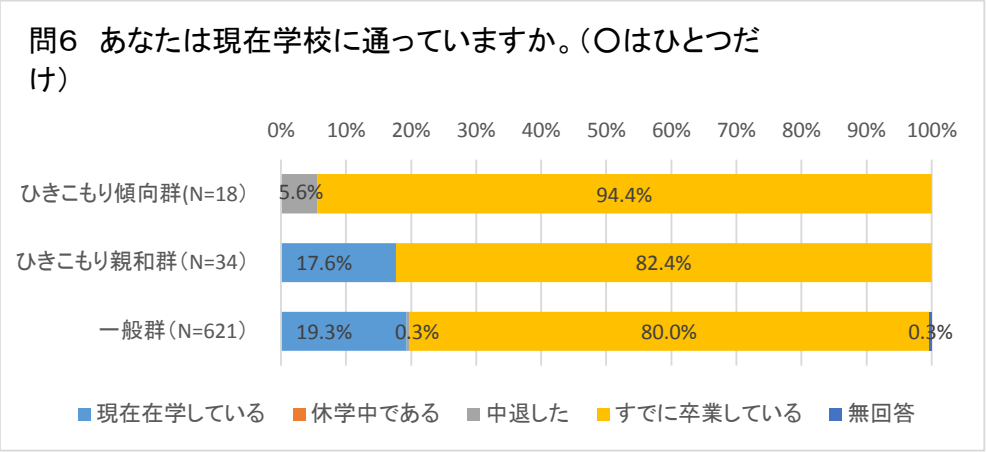
５　住居地区



地域の状況について聞いたところ、ひきこもり傾向群及びひきこもり親和群ともに佐布里小学校区が最も多い。ひきこもり傾向群は佐布里又は新知小学校区が高い割合を占めている。

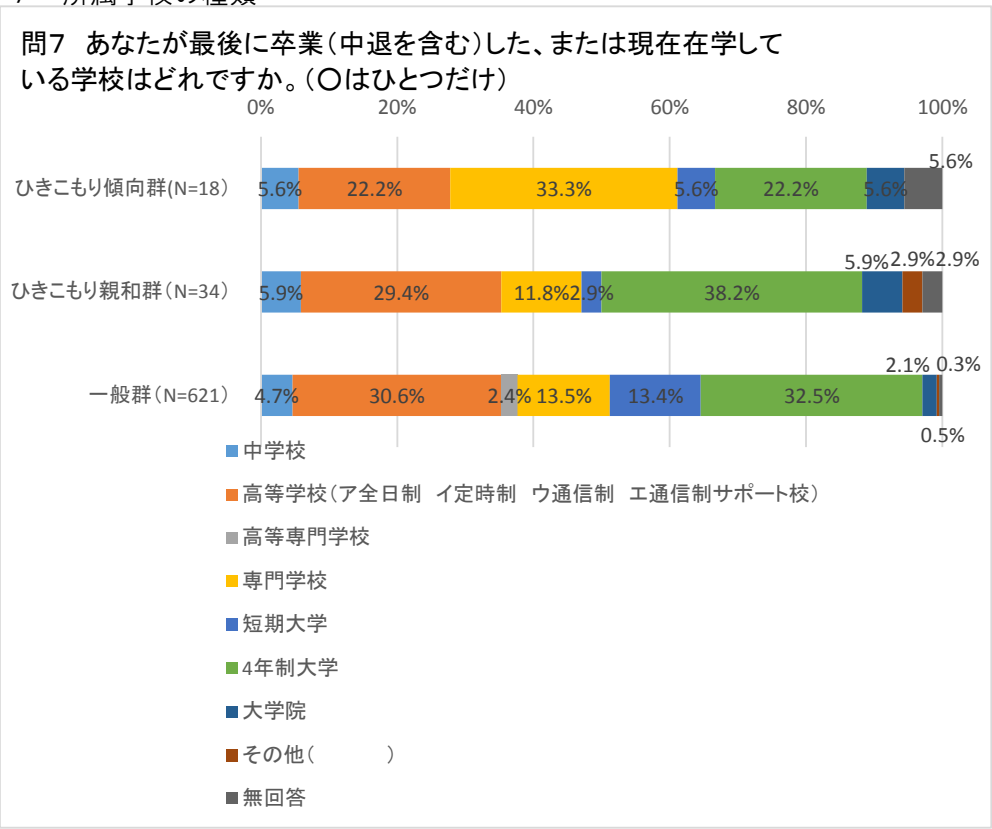
２　学校に関すること

６　通学状況



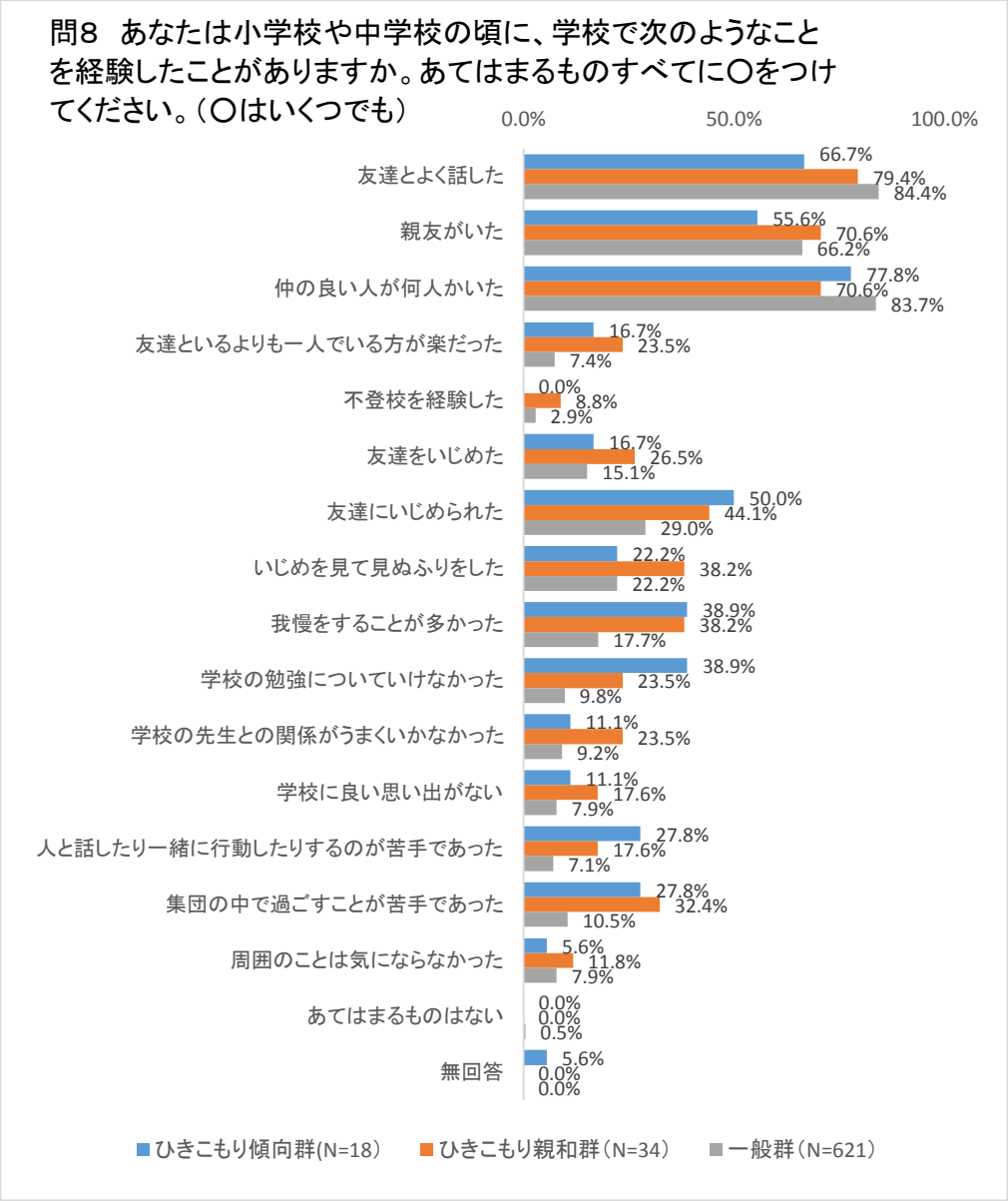
現在の通学状況について聞いたところ、ひきこもり傾向群で「すでに卒業している」が94.4%、「中退した」5.6%、「現在在学している」0%で、ひきこもり親和群では「すでに卒業している」が82.4%、「現在在学している」が17.6%であった。また、一般群では「すでに卒業している」が80.0%、「現在在学している」が19.3%、「中退した」が0.3%となった。ひきこもり傾向群、ひきこもり親和群、一般群を比較してみると、ひきこもり傾向群は「中退した」が多い傾向にある。

７　所属学校の種類



最後に卒業した、又は在学している学校について聞いたところ、ひきこもり傾向群では「専門学校」33.3%、「高等学校」又は「4年生大学」が22.2%と同じで、「中学校」、「短期大学」、「大学院」が5.6%と同じ。ひきこもり親和群では「4年生大学」38.2%、「高等学校」29.4%、「専門学校」11.8%、「中学校」又は「大学院」5.9%と同じ。一般群では「4年生大学」32.5%、「高等学校」30.6%、「専門学校」13.5%、「短期大学」13.4%であった。

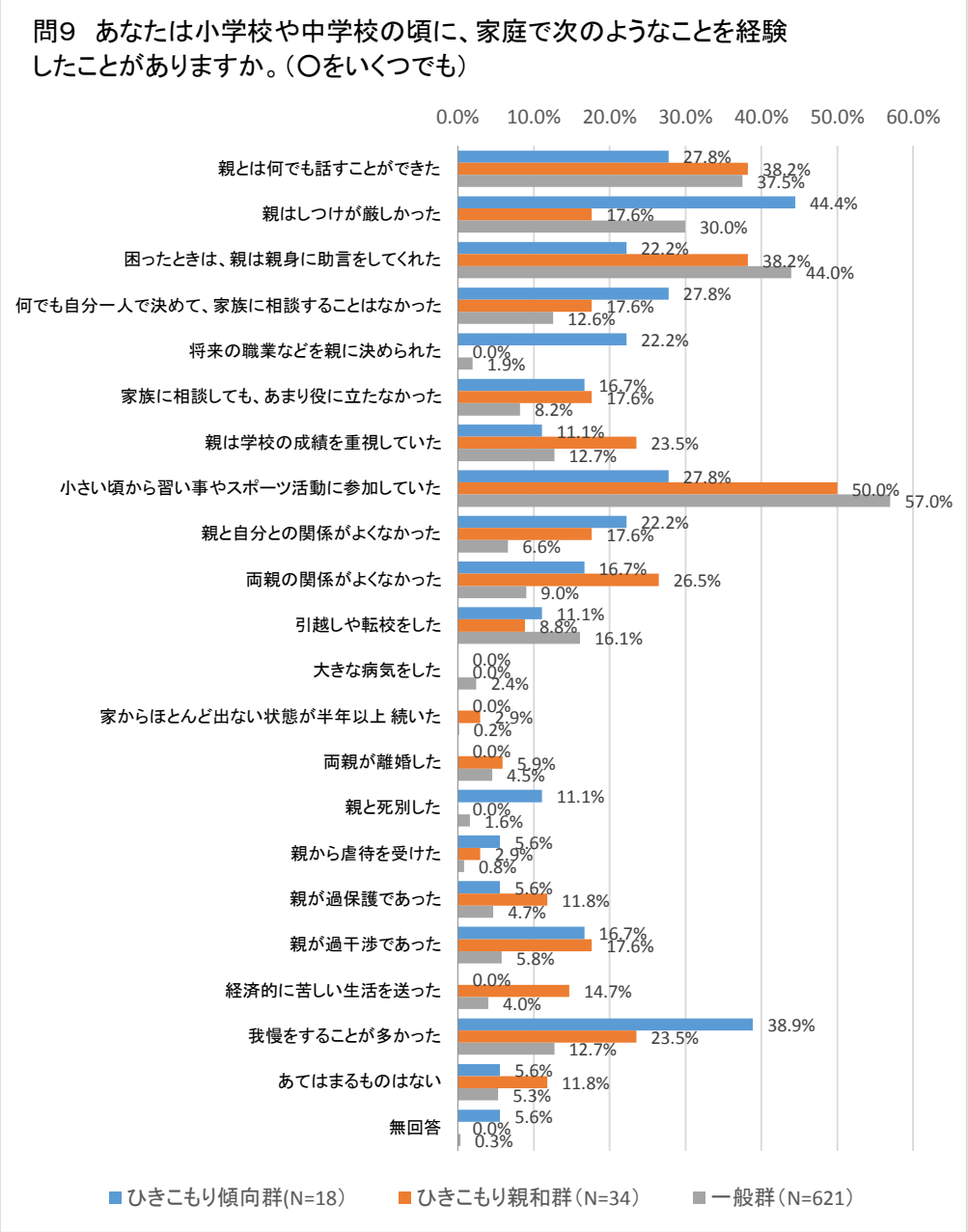
８　小中学校時代の学校での経験



小学校や中学校の頃に学校で経験したことについて聞いたところ、ひきこもり傾向群では「仲の良い人が何人かいた」77.8%、「友達とよく話をした」66.7%、「親友がいた」55.6%、ひきこもり親和群では「友達とよく話した」79.4%、「親友がいた」及び「仲の良い人が何人かいた」がそれぞれ70.6%、一般群では「友達とよく話した」84.4%、「仲の良い人が何人かいた」83.7%、「親友がいた」66.2%であった。ひきこもり傾向群とひきこもり親和群は、一般群と比較した場合、学校生活において「友達にいじめられた」、「我慢をすることが多かった」、「学校の勉強についていけなかった」、「集団の中で過ごすことが苦手であった」が多く、集団生活になかなかなじめなかったと考えられる。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「友達とよく話した」（群Ａ57.1%、群Ｂ72.7%）、「親友がいた」（群Ａ28.6%、群Ｂ72.7%）、「仲の良い人が何人かいた」（群Ａ57.1%、群Ｂ90.9%）で、ひきこもり群Ａよりひきこもり群Ｂの方が友人関係が保たれていたことが分かる。また、両群に共通することは、主に「友達にいじめられた」（Ａ群57.1%、Ｂ群45.5%）、「学校の勉強についていけなかった」（群Ａ42.9%、群Ｂ36.4%）、「集団の中で過ごすことが苦手であった」（群Ａ28.6%、群Ｂ27.3%）が高く、人間関係や集団生活に不自由さを感じていたことが分かった。また、「我慢をすることが多かった」（群Ａ57.1%、群Ｂ27.3%）ではひきこもり群Ａがひきこもり群Ｂよりも高く、学校において我慢をする経験が多かったと考えられる。

9　小中学校時代の家庭での経験

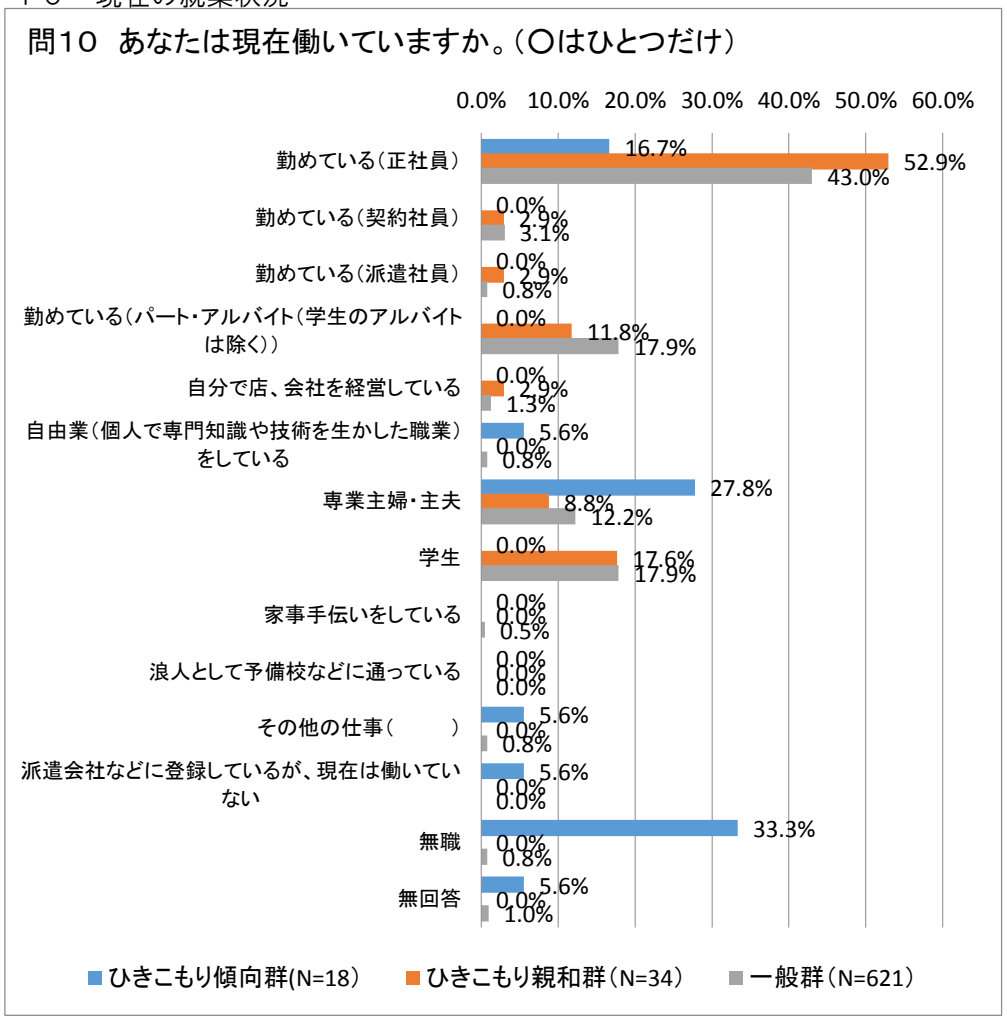


小学校や中学校の頃に、家庭での経験を聞いたところ、ひきこもり親和群、一般群とも「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」が多く（ひきこもり傾向群27.8%、ひきこもり親和群50.0%、一般群57.0%）なっていた。ひきこもり親和群と一般群は次いで「親とは何でも話すことができた」、「困ったときは、親は親身に助言をしてくれた」が多かった。ひきこもり傾向群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて「我慢をすることが多かった」、「親はしつけが厳しかった」、「何でも自分一人で決めて、家族に相談することはなかった」が多く、さらに「将来の職業などを親に決められた」が他の群と比べても最も高かった。ひきこもり傾向群、ひきこもり親和群ともに「親が過干渉であった」、「親が過保護であった」、「両親の関係がよくなかった」が一般群よりも多かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａ、ひきこもり群Ｂとも「親とは何でも話すことができた」（群Ａ28.6%、群Ｂ27.3%）、「親はしつけが厳しかった」（群Ａ42.9%、群Ｂ45.5%）、「親が過干渉であった」（群Ａ14.3%、群Ｂ18.2%）、「家族に相談しても、あまり役に立たなかった」又は「両親の関係がよくなかった」（Ａ群14.3%、Ｂ群18.2%）となった。ひきこもり群Ａではひきこもり Ｂ群と比べて「何でも自分一人で決めて、家族に相談することはなかった」、「将来の職業などを親に決められた」が多かった。ひきこもり群Ｂはひきこもり群Ａよりも「困ったときは、親は親身に助言をしてくれた」、「親と自分との関係がよくなかった」、「親と死別した」が多かった。また、注目すべきところはひきこもり群Ｂは「我慢をすることが多かった」（群Ａ28.6%、群Ｂ45.5%）が高く、「親はしつけが厳しかった」、「家族に相談しても、あまり役に立たなかった」、「親と自分との関係がよくなかった」、「両親の関係がよくなかった」、「親と死別した」、「親から虐待を受けた」、「親が過保護であった」、「親が過干渉であった」の項目がいずれもひきこもり群Ａより上回った点である。ひきこもり群Ｂはひきこもり群Ａと比べても、家庭で親との関係に不自由さや葛藤を抱えていたことが分かる。

３　仕事に関すること

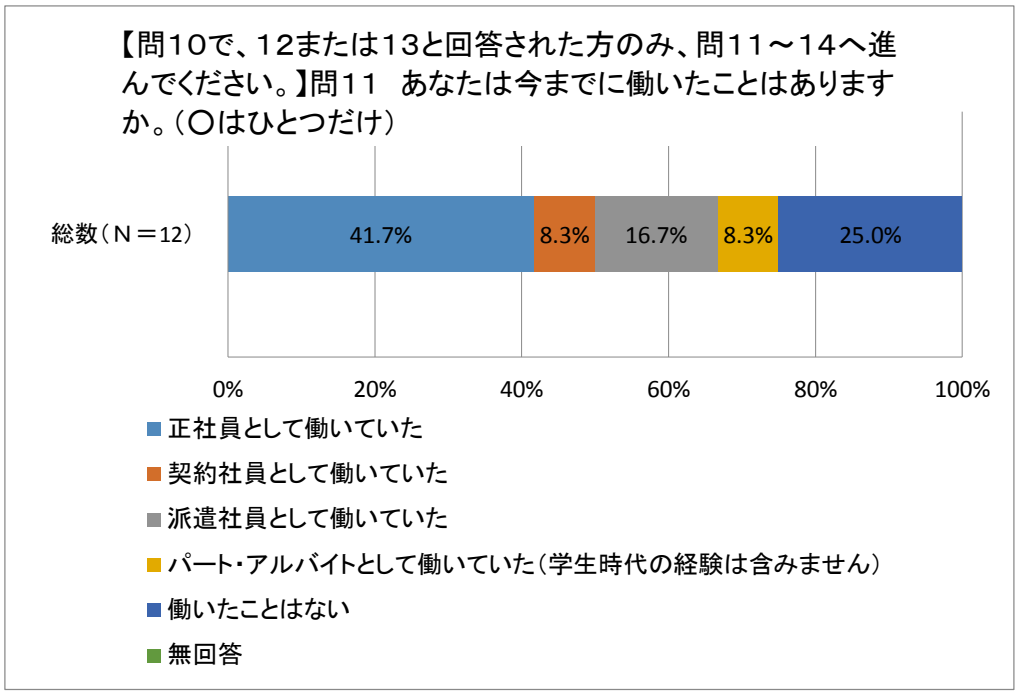
１０　現在の就業状況



現在の就業状況を聞いたところ、ひきこもり傾向群は「無職」が多く、ひきこもり親和群は「勤めている（正社員）」が多かった。ひきこもり傾向群では「無職」33.3%、「専業主婦・主夫」が27.8%、ひきこもり親和群では「勤めている（正社員）」52.9%、「学生」17.6%であった。また、一般群では「勤めている（正社員）」43.0%、勤めている（パート・アルバイト（学生のアルバイトは除く））」及び「学生」がそれぞれ17.9%であった。

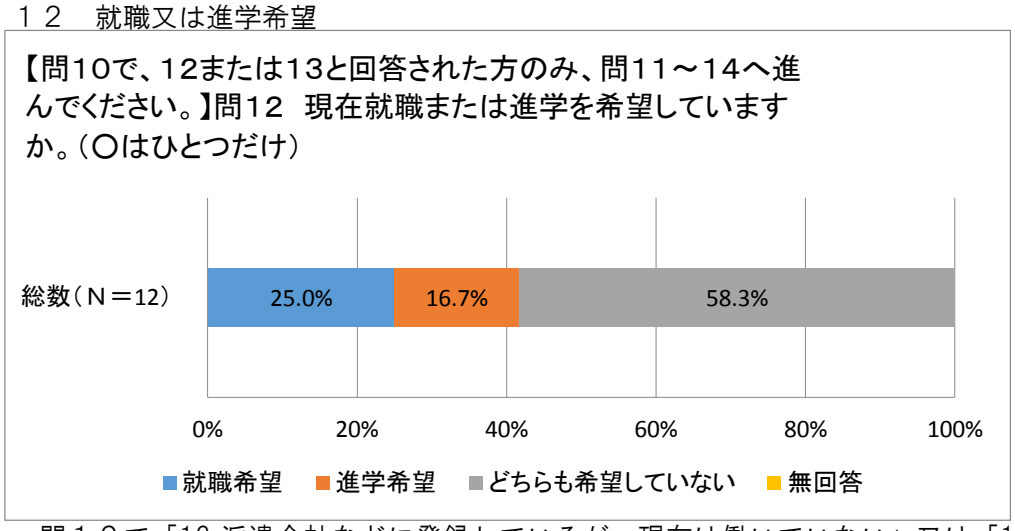
＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａは「勤めている「正社員」、「無職」がいずれも多く、ひきこもり群Ｂは「専業主婦・主夫」、「無職」が多かった。ひきこもり傾向群に「専業主婦・主夫」が多いのは、ひきこもり群Ｂの影響が大きかったと考えられる。両群ともに「無職」が多かった。

１１　働いた経験



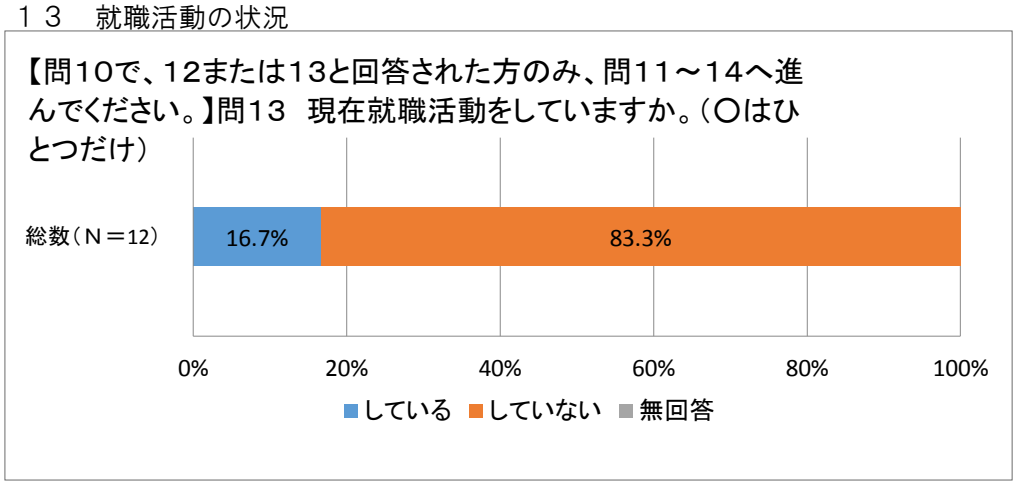
問１０で「12 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」又は「13 無職」と答えた人に働いた経験を聞いたところ、「正社員として働いていた」41.7%、「働いたことはない」25.0%、「派遣社員として働いていた」16.7%、「契約社員として働いていた」又は「パート・アルバイトとして働いていた」はいずれも8.3%であった。

１２　就職又は進学希望



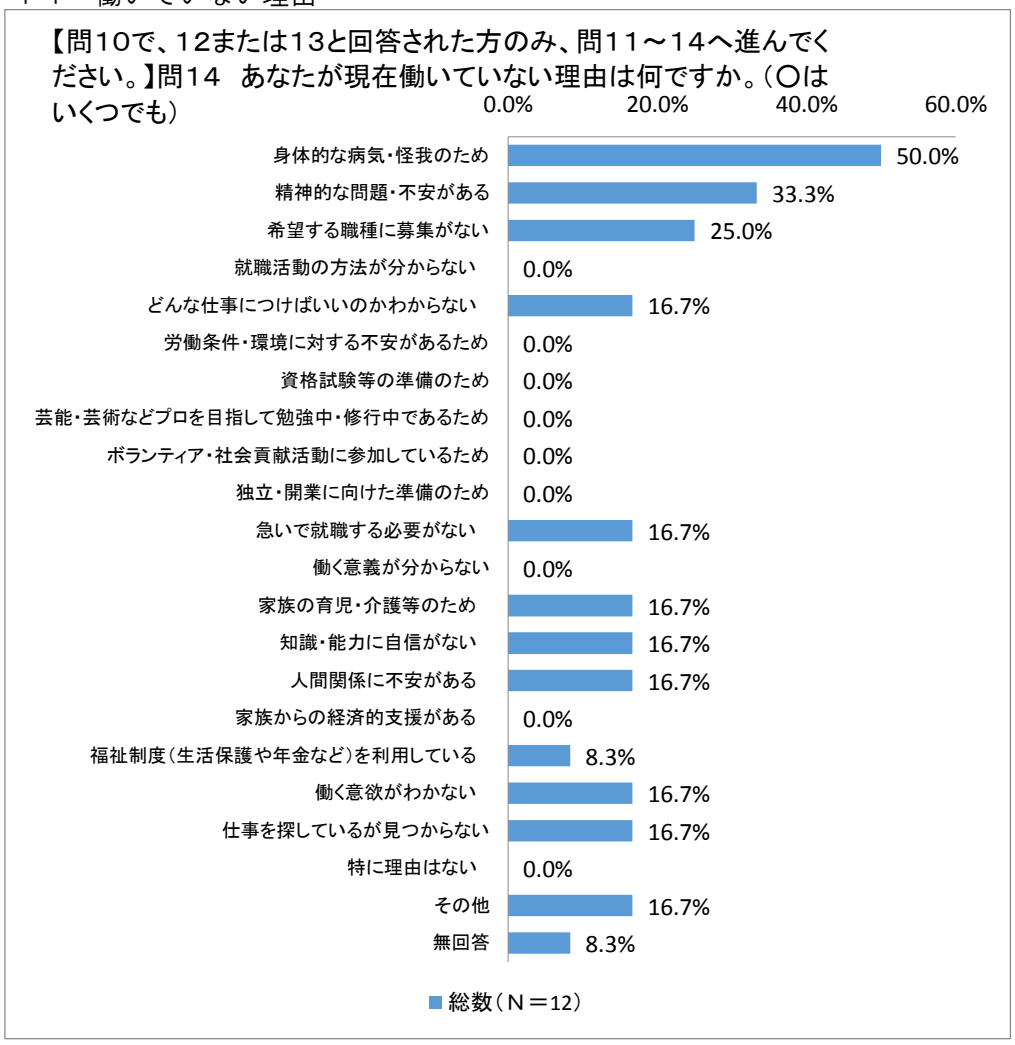
問１２で「12 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」又は「13 無職」と答えた人に現在就職または進学を希望しているか聞いたところ、「どちらも希望していない」58.3%、「就職希望」25.0%、「進学希望」16.7%であった。

１３　就職活動の状況



問１２で「12 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」又は「13 無職」と答えた人に、現在就職活動をしているか聞いたところ、「している」が16.7%、「していない」が83.3%、約8割の人が「していない」と回答した。

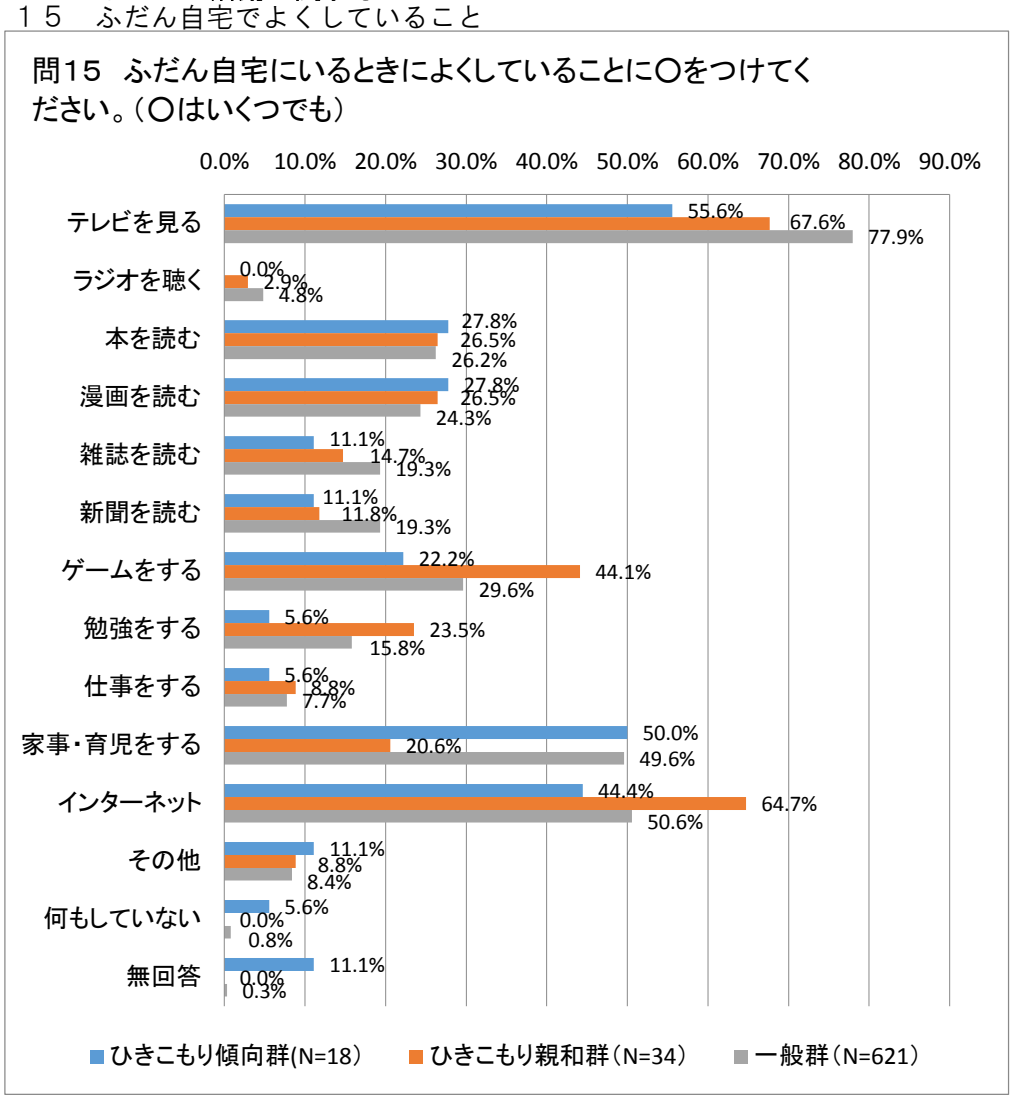
１４　働いていない理由



問１２で「12 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」又は「13 無職」と答えた人に働いていない理由を聞いたところ、「身体的な病気・怪我のため」50.0%、「精神的な問題・不安がある」33.3%、「希望する職種に募集がない」25.0%であった。

４　ふだんの活動に関すること

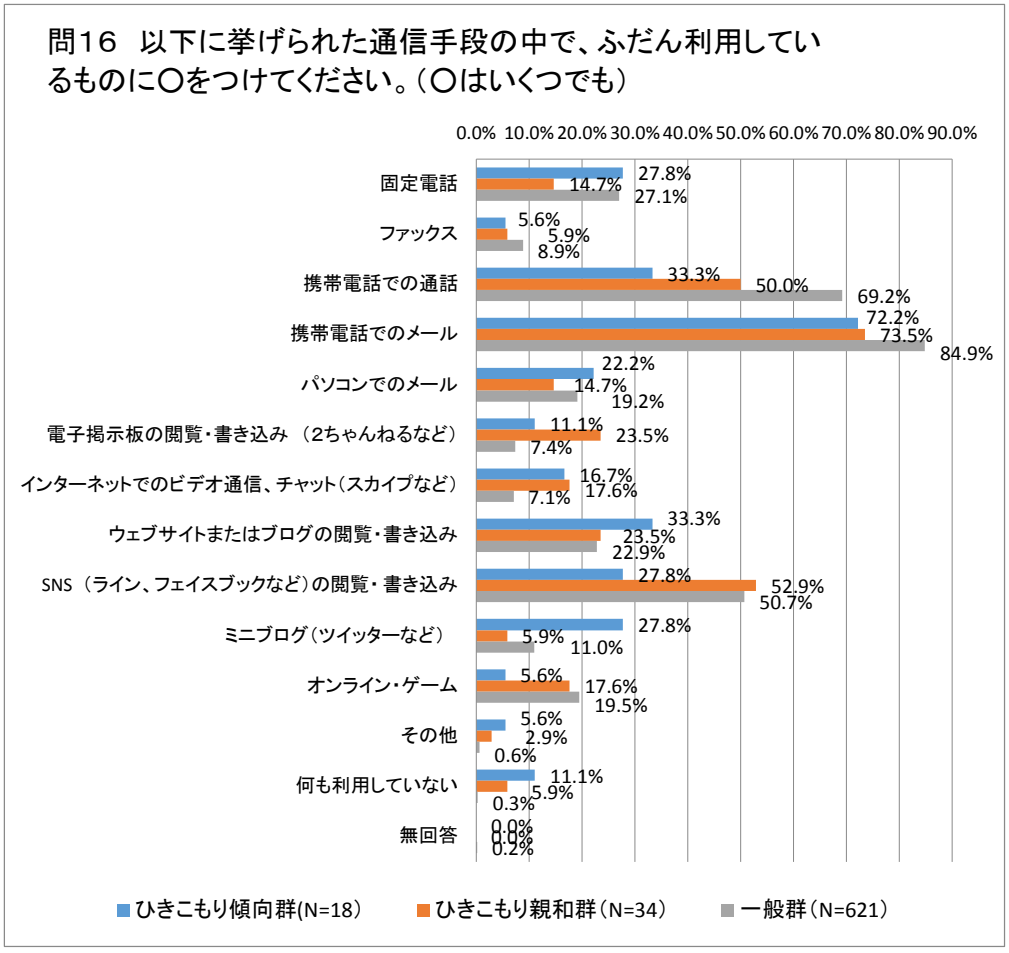
１５　ふだん自宅でよくしていること



ふだん自宅にいるときによくしていることについて聞いたところ、ひきこもり傾向群では「テレビを見る」55.6%、「家事・育児をする」50.0%、「インターネット」44.4%で、ひきこもり親和群では「テレビを見る」67.6%、「インターネット」64.7%、「ゲームをする」44.1%となった。一般群では「テレビを見る」77.9%、「インターネット」50.6%、「家事・育児をする」49.6%となった。

*ひきこもり群Aでは「テレビを見る」85.7 %、「本を読む」、「漫画を読む」、「インターネット」がいずれも42.9%、ひきこもり群Ｂでは「家事・育児をする」81.8%、「インターネット」45.5%、「テレビを見る」36.4%となった。

１６　通信手段でふだん利用しているもの

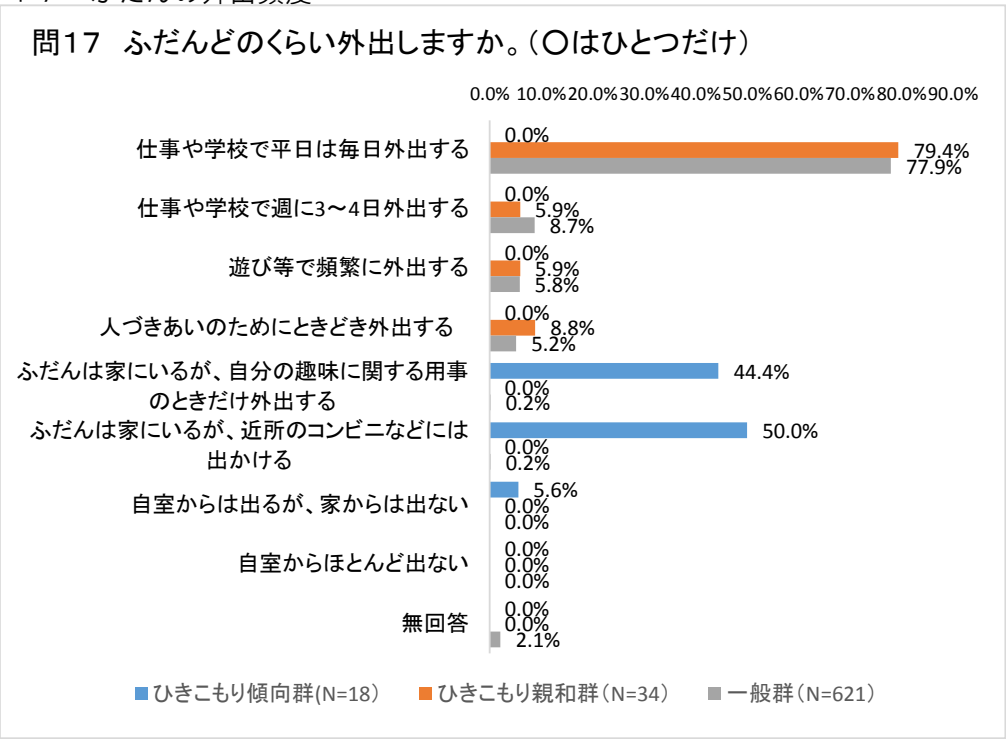


ふだん利用している通信手段について聞いたところ、ひきこもり傾向群、ひきこもり親和群、一般群とも、「携帯電話でのメール」が最も多かった。ひきこもり親和群と一般群では「携帯電話での通話」や「ＳＮＳ」が多い傾向に対して、ひきこもり傾向群では「携帯電話での通話」33.3%、「ＳＮＳ」27.8%と少ない傾向にある。ひきこもり傾向群はひきこもり親和群や一般群と比べて、「ウェブサイトまたはブログの閲覧・書き込み」や「ミニブログ」が多く、ＳＮＳやラインなど双方向のコミュニケーションよりも一方通行のコミュニケーション手段を利用している傾向が多いと考えられる。

＊ひきこもり群Aとひきこもり群Bとの比較では、ひきこもり群A、ひきこもり群Bともに「携帯電話でのメール」が最も多かった。ひきこもり群Ａはひきこもり群Ｂと比べて、「何も利用していない」（群Ａ28.6%、群Ｂ0%）、ひきこもり群Ｂはひきこもり群Ａと比べて「ウェブサイトまたはブログの閲覧・書き込み」（Ａ群14.3%、Ｂ群45.5%）が高かった。

５　ひきこもり状態に関すること

１７　ふだんの外出頻度

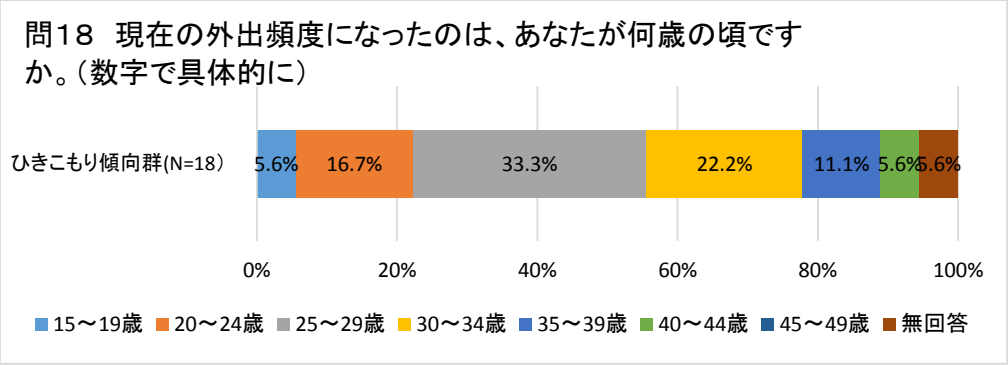


ふだんの外出頻度について聞いたところ、ひきこもり傾向群の中で、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」及び「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」を合わせると94.4%であった。ひきこもり傾向群の中で「自室からは出るが、家からはでない」と回答した人は5.6%であった。ひきこもり親和群では「人づきあいのためにときどき外出する」が8.8%であった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」（群Ａ42.9%、群Ｂ45.5%）、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」（群Ａ42.9%、群Ｂ54.5%）、「自室からは出るが、家からは出ない」（群Ａ14.3%、群Ｂ0%）となった。

問１８～２３は問１７において外出頻度が低かった人（「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」から「自室からほとんど出ない」を選択した人」）のみが回答する項目でる。本報告書では、その中でもひきこもり傾向群に該当する人の結果についてのみ掲載する。

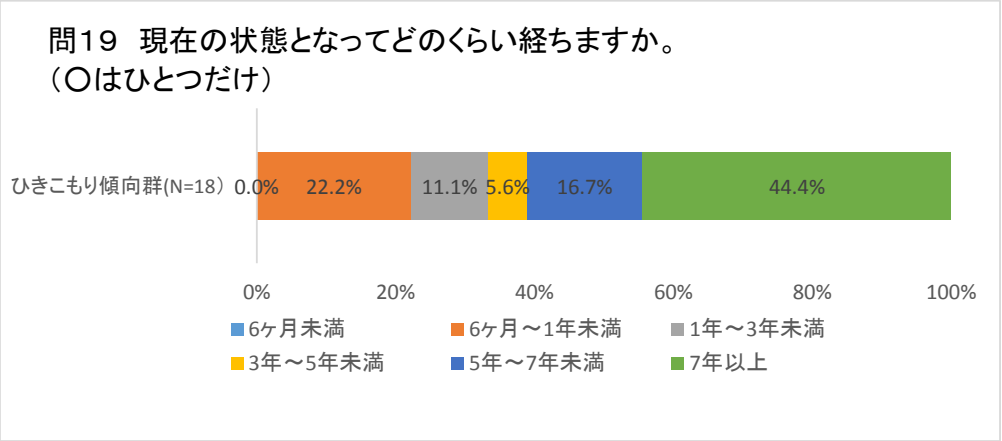
１８　ひきこもりの状態になった年齢



現在の状態になったのは何歳の頃かについて聞いたところ、「25～29歳」が33.3%、「30～34歳」が22.2%、「35～39歳」が11.1%、「15～19歳」又は「40～44歳」はいずれも5.6%であった。「20～24歳」及び「25～29歳」を合わせると50.0%となり、5割の人が20代のうちにひきこもり状態になっていた。また、「30～34歳」及び「35～39歳」を合わせると30代でひきこもり始めた人も33.3%いることが分かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａでは「20～24歳」が14.3%、「25～29歳」が42.9%、「30～34歳」が14.3%、「35～39歳」が14.3%で、20代が57.2%、次に30代が28.6%となった。ひきこもり群Ｂでは、「15～19歳」9.1%、「20～24歳」18.2%、「25～29歳」27.3%、「30～34歳」27.3%、「35～39歳」が9.1%、「40～44歳」が9.1%で、20代が45.5%、30代が36.4%、40代が9.1%となった。ひきこもり群Ａ、群Ｂともに20代・30代が全体の約8割を占めることが分かった。また、ひきこもり群Ｂの方が30代以降に占める割合が多く、高年齢化の傾向にあると推測される。

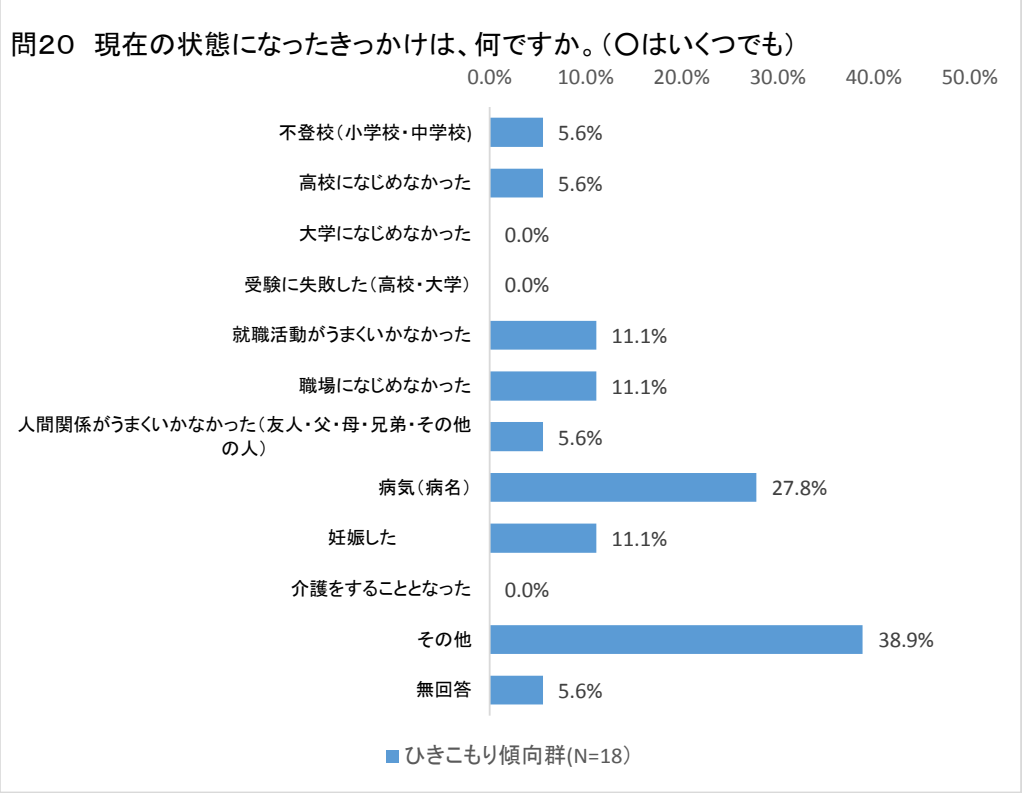
１９　ひきこもりの状態になってからの期間



現在の状態になってからの期間について聞いたところ、「７年以上」が44.4%、「6ヶ月～1年未満」22.2%、「5年～7年未満」16.7%であった。「5年以上」となると61.1%で、ひきこもりは長期化傾向にあることが分かった。

*ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａが、「7年以上」が57.1%、「5年～7年未満」が28.6%、「1年～3年未満」が14.3%となった。「5年以上」が85.7%とひきこもり群Ａは長期化傾向にある。ひきこもり群Ｂでは、「7年以上」及び「6ヶ月～1年未満」がいずれも36.4%、「1年～3年未満」及び「3年～5年未満」並びに「5年～7年未満」がいずれも9.1%となった。ひきこもり群Ｂでは、「5年以上」45.5%で、ひきこもり群Ａと比べると長期化傾向はゆるやかな数値となった。

２０　現在の状態になったきっかけ

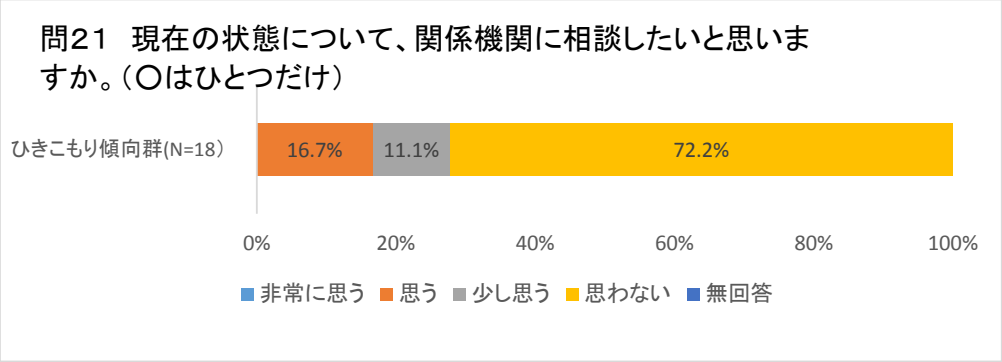


現在の状態になったきっかけについて聞いたところ、「その他」38.9%（失職、仕事、面倒になったなど）、「病気」27.8%（うつ病、不安障がい、統合失調症など）、「就職活動がうまくいかなかった」及び「職場になじめなかった」はそれぞれ11.1%となった。「不登校」（5.6%）や「高校になじめなかった」（5.6%）は合計しても11.2%に留まった。

*ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａでは、「その他」28.6%（主に仕事の業務に関すること）、「病気」（病名不詳）、「不登校」、「高校になじめなかった」、「就職活動がうまくいかなかった」、「職場になじめなかった」はそれぞれ14.3%となった。ひきこもり群Ｂでは、「その他」45.5%（主に面倒になった、失職、大学院中退、育児など）、「病気」36.4%（うつ病、統合失調症、社会不安障がい、全般性不安障がい、脳梗塞）、「妊娠した」18.2%、「就職活動がうまくいかなかった」、「職場になじめなかった」、「人間関係がうまくいかなかった」がいずれも9.1%であった。

６　相談機関に関すること

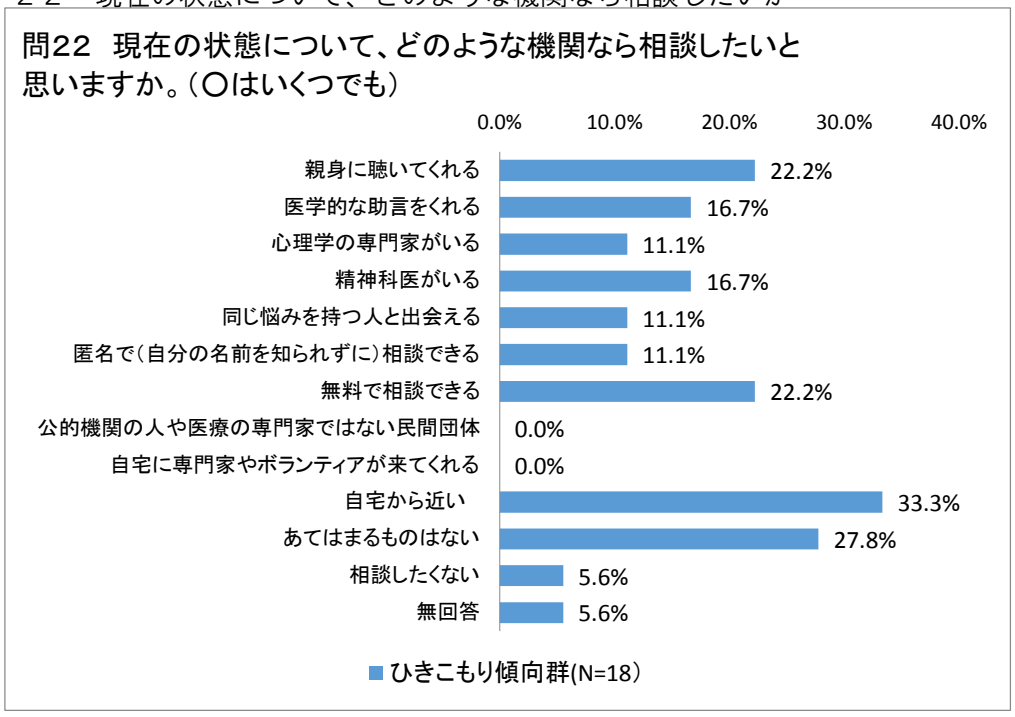
２１　現在の状態について、関係機関に相談したいか



現在の状態について、関係機関に相談したいかについて聞いてみたところ、「思う」16.7%、「少し思う」11.1%、「思わない」72.2%であった。「思わない」が全体の約7割を占め、ひきこもり傾向群は、関係機関への相談意欲が低い傾向にあることが分かる。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａは「思う」14.3%、「少し思う」28.6%、「思わない」57.1%であった。ひきこもり群Ｂは、「思う」18.2%、「少し思う」0%、「思わない」81.8%で、ひきこもり群Ａと比べて、相談意欲が低い傾向にある。

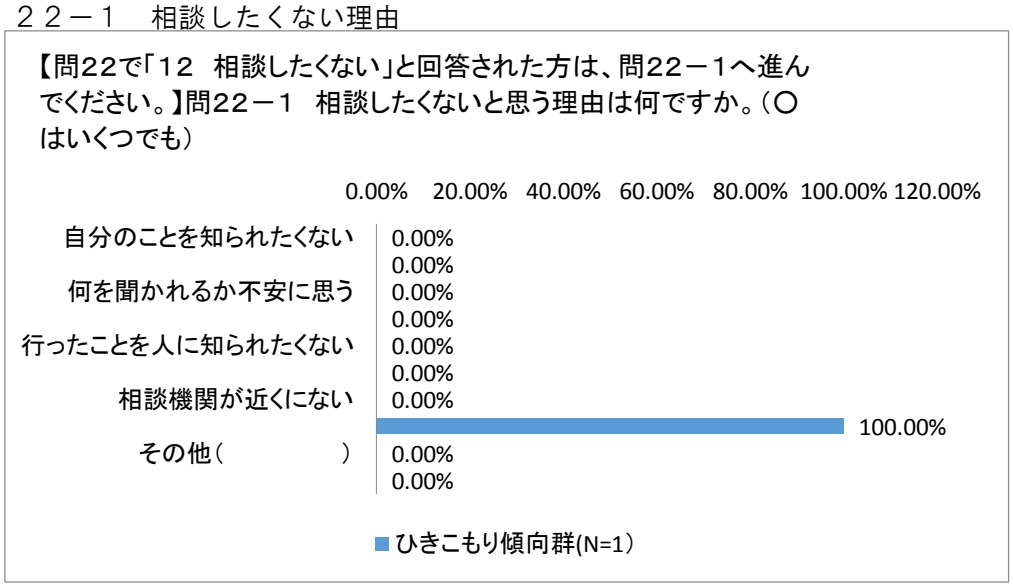
２２　現在の状態について、どのような機関なら相談したいか



現在の状態について、どのような関係機関なら相談したいかについて聞いてみたところ、「自宅から近い」33.3%、「あてはまるものはない」27.8%、「親身に聴いてくれる」22.2%、「無料で相談できる」22.2%、「医学的な助言をくれる」16.7%、「精神科医がいる」16.7%などの順となっていた。「自宅から近い」や「無料で相談できる」並びに「親身に聴いてくれる」が全体の中でも多い傾向にあった。

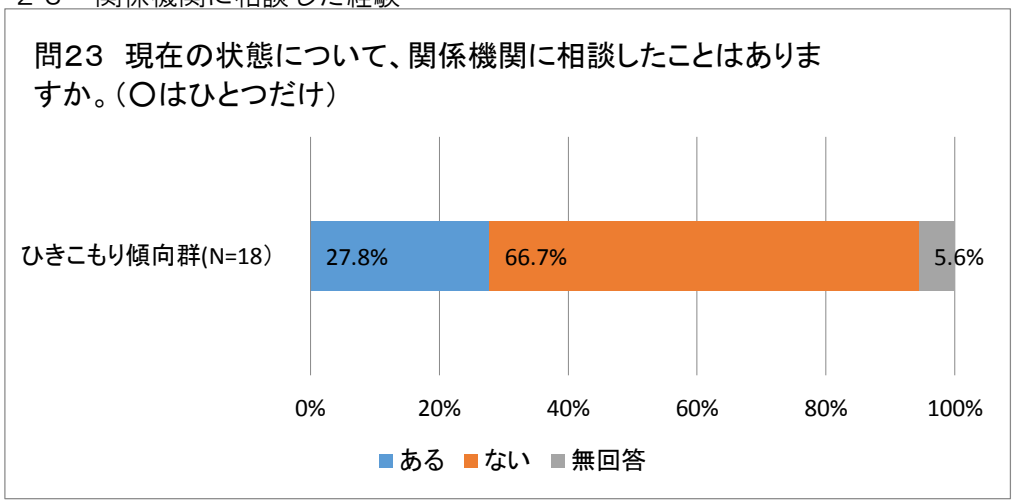
＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａ、ひきこもり群Ｂともに、「自宅から近い」（Ａ群28.6%、Ｂ群36.4%）、次に「あてはまるものはない」（群Ａ28.6%、群Ｂ27.3%）となった。ひきこもり群Ａはひきこもり群Ｂと比べて「相談したくない」（群Ａ14.3%、群Ｂ0%）が多い一方、ひきこもり群Ｂでは、「精神科医がいる」（群Ａ0%、群Ｂ27.3%）、「心理学の専門家がいる」（群Ａ0%、群Ｂ18.2%）で心理的な支援を求めていることが特徴である。

２２－１　相談したくない理由



問２２－１で「相談したくない」と答えた人に、相談したくない理由について聞いてみたところ、「あたはまるものはない」の回答を得た。

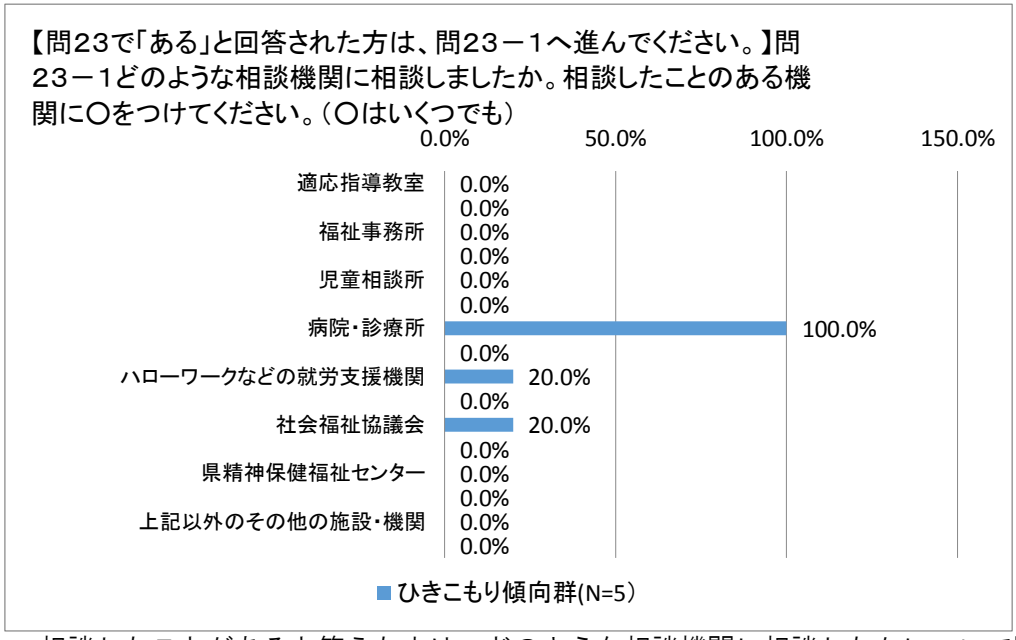
２３　関係機関に相談した経験



現在の状態につて、関係機関に相談したことがあるかについて聞いてみたところ、「ある」27.8%、「ない」66.7%であった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「ある」がひきこもり群Ａでは14.3%、ひきこもり群Ｂでは36.4%となった。ひきこもり群Ａはひきこもり群Ｂより関係機関への相談を避ける傾向にある。

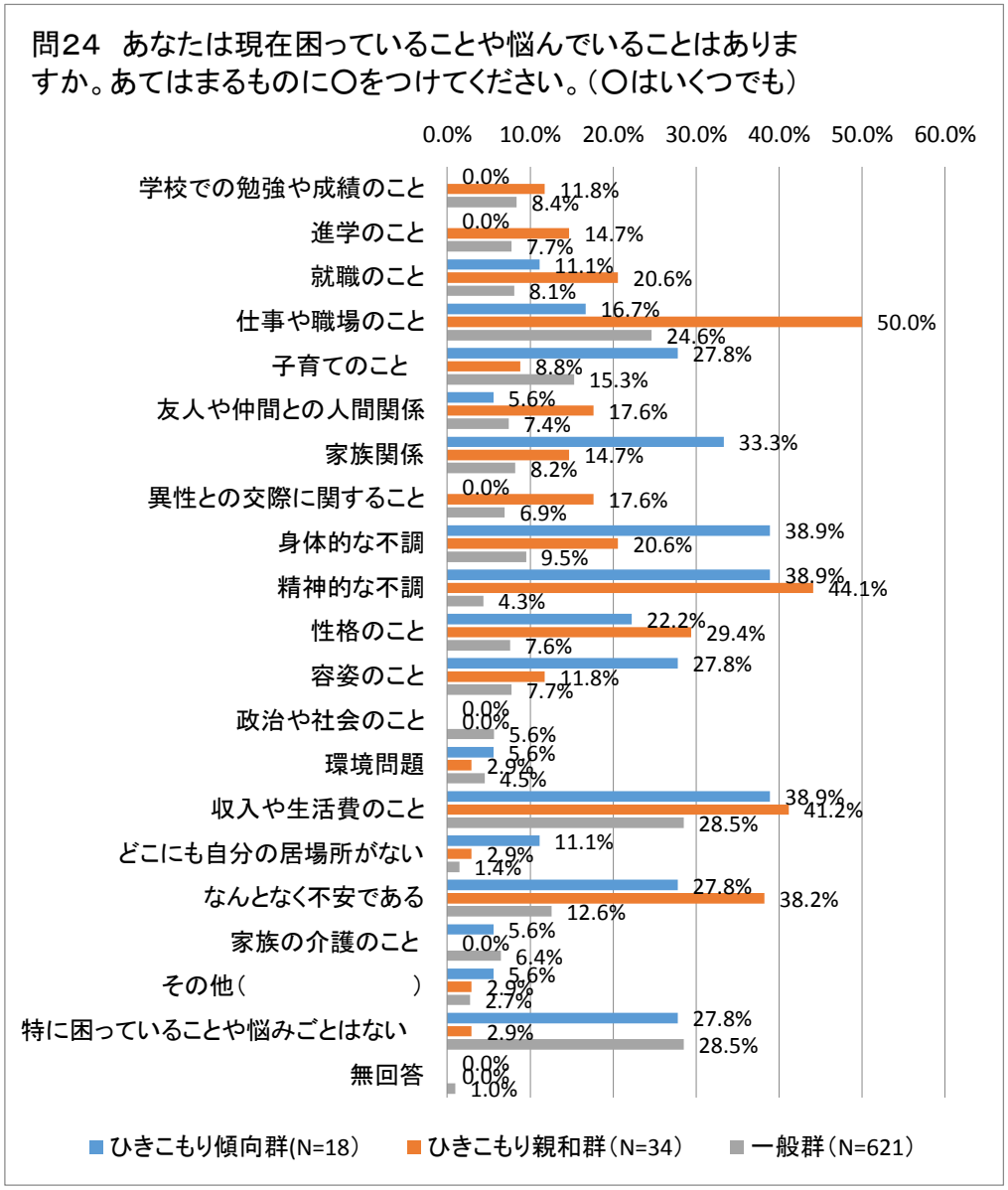
問２３－１　相談した機関



相談したことがあると答えた人は、どのような相談機関に相談したかについて聞いてみたところ、「病院・診療所」が100%、次いで「ハローワークなどの就労支援機関」及び「社会福祉協議会」20.0%となった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａは「病院・診療所」、「社会福祉協議会」が100%、ひきこもり群Ｂでは、「病院・診療所」100%、次いで「ハローワークなどの就労支援機関」25.0%となった。

２４　現在困っていること、悩んでいること



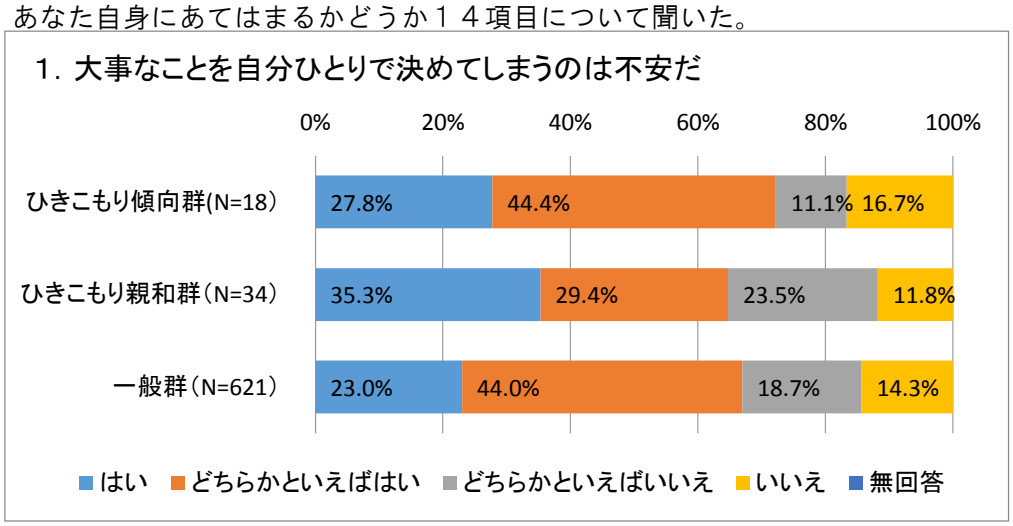
現在困っていることや悩んでいることについて聞いてみたところ、ひきこもり傾向群では「身体的な不調」及び「精神的な不調」並びに「収入や生活費のこと」いずれも38.9%、次いで「家族関係」33.3%、ひきこもり親和群では「仕事や職場のこと」50.0%、「精神的な不調」44.1%、「収入や生活費のこと」41.2%、一般群では「収入や生活費のこと」28.5%、「仕事や職場のこと」24.6%、「子育てのこと」15.3%となった。ひきこもり傾向群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて「家族関係」、「身体的な不調」、「容姿のこと」、「どこにも居場所がない」と答えた人が多く、ひきこもり親和群では「友人や仲間との人間関係」、「異性との交際に関すること」、「性格のこと」、「なんとなく不安である」が多く、他者との関係性や自分自身に対して不安を感じやすい傾向にあることが分かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａでは「家族関係」（群Ａ42.9%、群Ｂ27.3%）又は「身体的な不調」（群Ａ42.9%、群Ｂ36.4%）が多く、ひきこもり群Ｂでは「収入や生活費のこと」（群Ａ14.3%、群Ｂ54.5%）、次に「精神的な不調」（群Ａ28.6%、群Ｂ45.5%）と多かった。ひきこもり群Ａはひきこもり群Ｂよりも「収入や生活費のこと」が40%と低く、生活費についてはあまり大きな不安を感じていないと推測される。また、ひきこもり群Ｂでは「どこにも自分の居場所がない」（群Ａ0%、群Ｂ18.2%）と高かった。

７　自分についてあてはまること

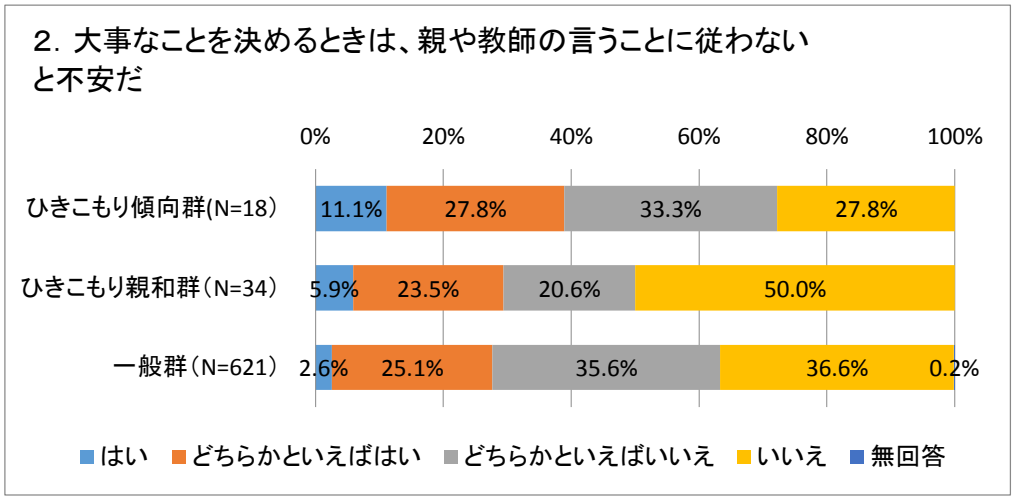
２５　自分自身にあてはまること

あなた自身にあてはまるかどうか１４項目について聞いた。



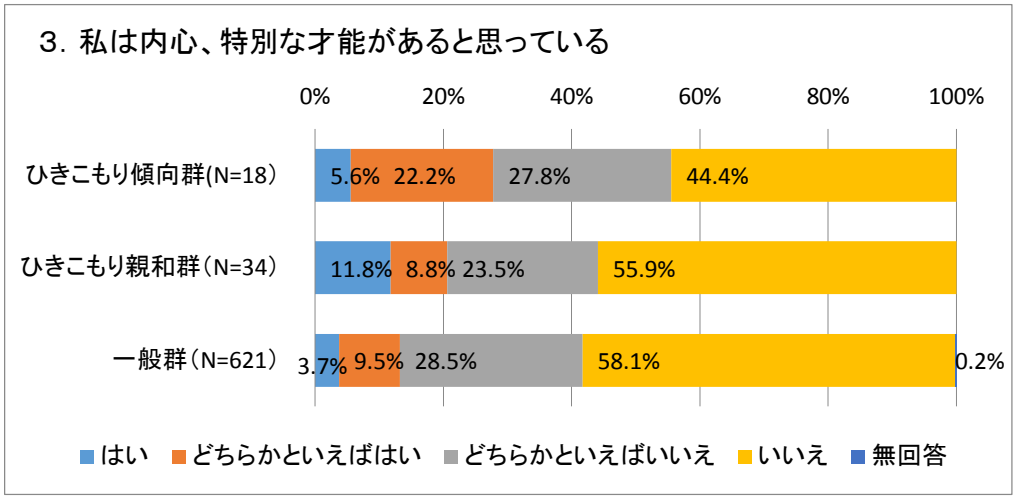
「大事なことを自分ひとりで決めてしまうことは不安だ」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では72.2%、ひきこもり親和群では64.7%、一般群では67.0%であった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは42.9%、ひきこもり群Ｂでは90.9%であった。ひきこもり群Ｂの大多数は不安を抱えていることが分かる。



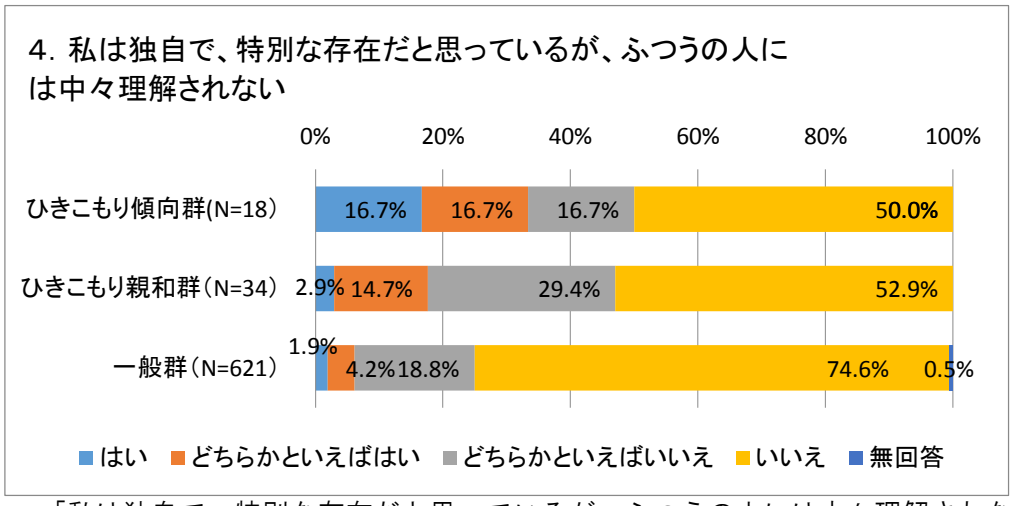
「大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では38.9%、ひきこもり親和群では29.4%、一般群では27.7%で、ひきこもり傾向群が最も多かった。ひきこもり傾向群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて自己決定に不安を感じやすい傾向にある。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは42.9%、ひきこもり群Ｂでは36.4%であった。



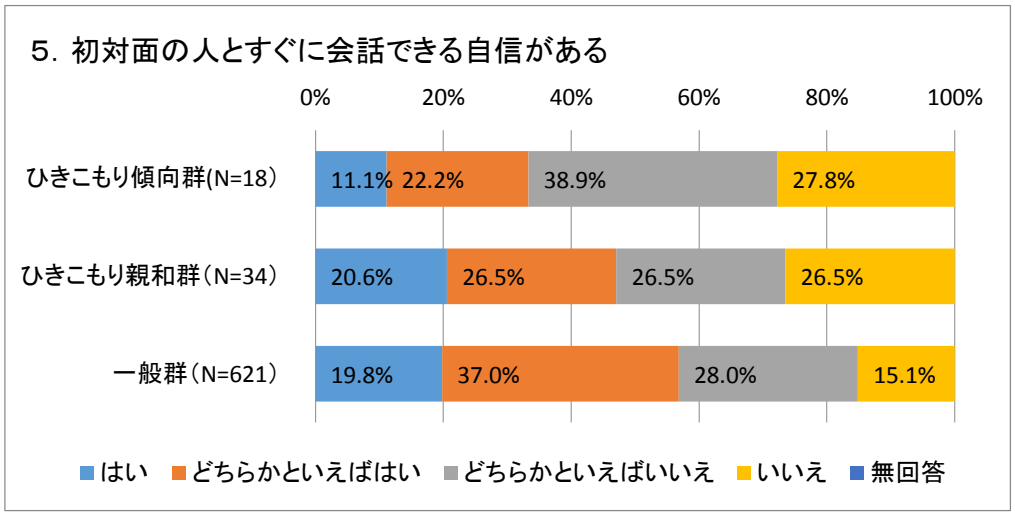
「私は内心、特別な才能があると思っている」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では27.8%、ひきこもり親和群では20.6%、一般群では13.2%であった。ひきこもり傾向群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて本当は理想の自分に近づきたいという気持ちが高い傾向にある。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは42.9%、ひきこもり群Ｂでは18.2%であった。



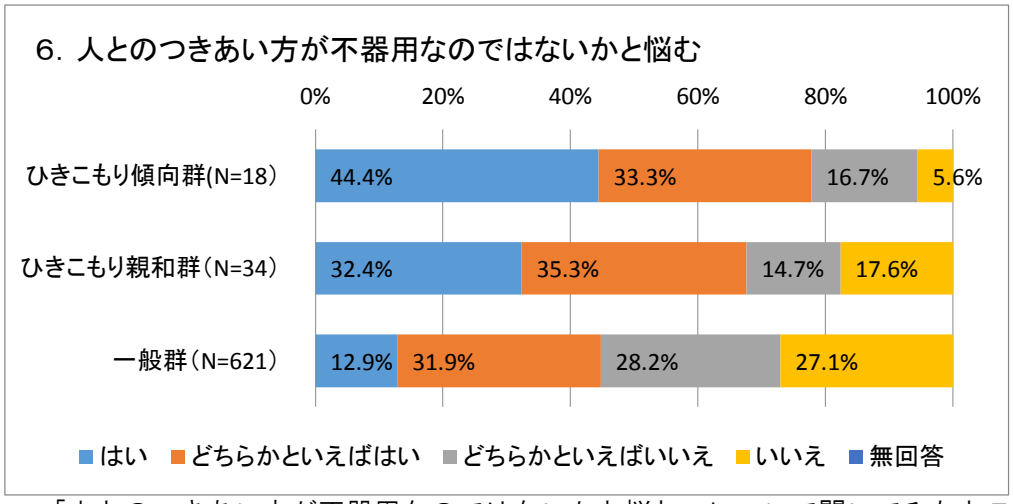
「私は独自で、特別な存在だと思っているが、ふつうの人には中々理解されない」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では33.4%、ひきこもり親和群では17.6%、一般群では6.1%であった。ひきこもり傾向群は、周囲から理解されない存在として捉える傾向が高かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは57.2%、ひきこもり群Ｂでは18.2%であった。



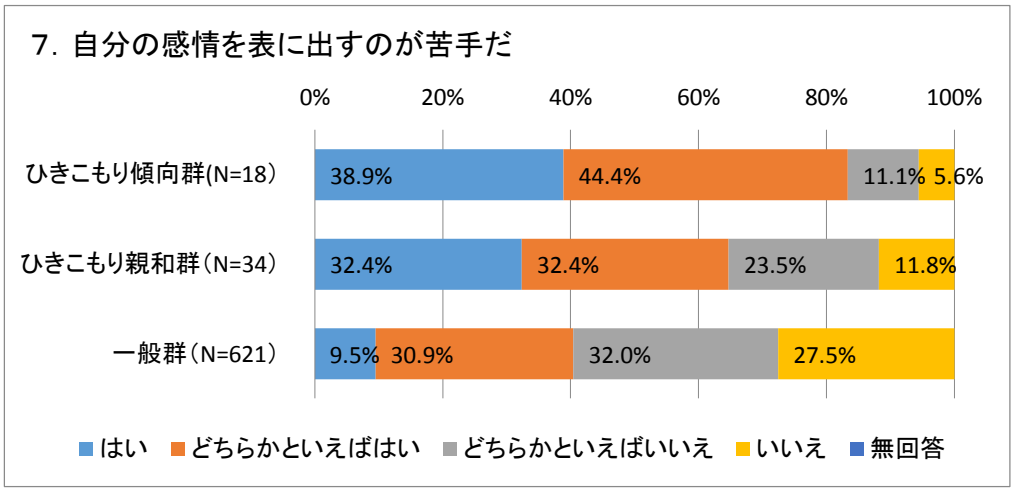
「初対面の人とすぐに会話できる自信がある」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では33.3%、ひきこもり親和群では47.1%、一般群では56.8%でった。ひきこもり傾向群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて、人との関わりに対して自信が持てない傾向がある。

ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは14.3%、ひきこもり群Ｂでは45.5%であった。



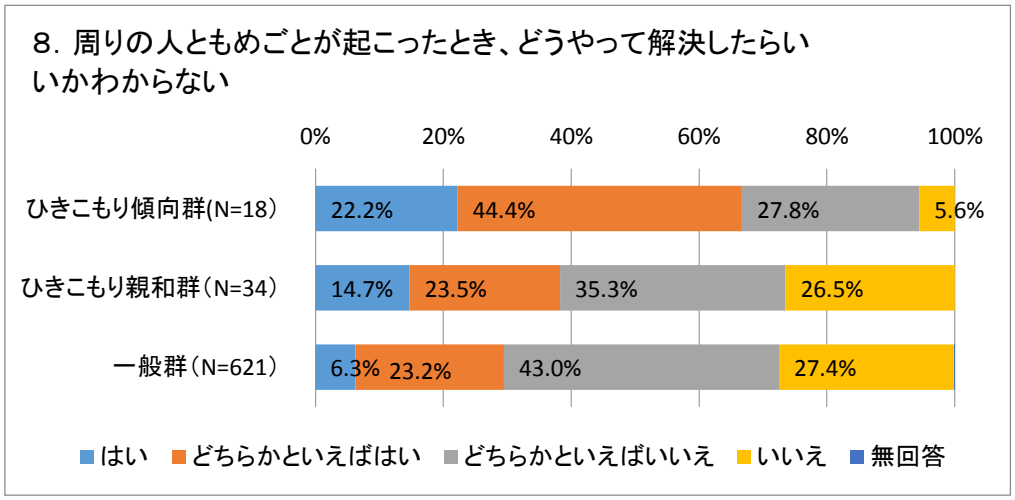
「人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では77.7%、ひきこもり親和群では67.7%、一般群では44.8%であった。ひきこもり傾向群とひきこもり親和群は、人づきあいに苦手さを抱えている傾向が高かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは85.7%、ひきこもり群Ｂでは72.8%であった。



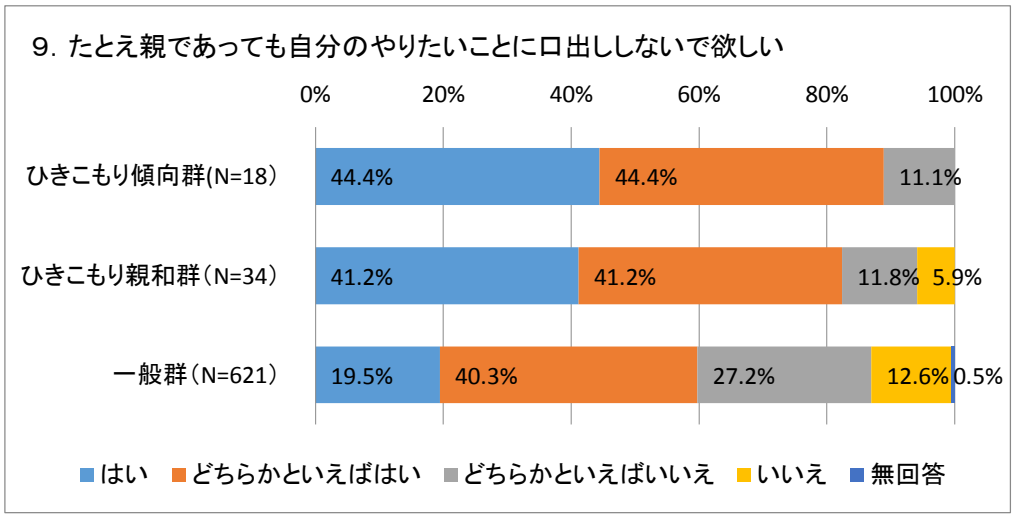
「自分の感情を表に出すのが苦手だ」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では83.3%、ひきこもり親和群では64.8%、一般群では40.4%であった。ひきこもり傾向群とひきこもり親和群は、一般群と比べて自己表現が苦手な傾向にある。特に、ひきこもり傾向群は全体の8割と高かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人はひきこもり群Ａでは85.8%、ひきこもり群Ｂでは81.9%であった。



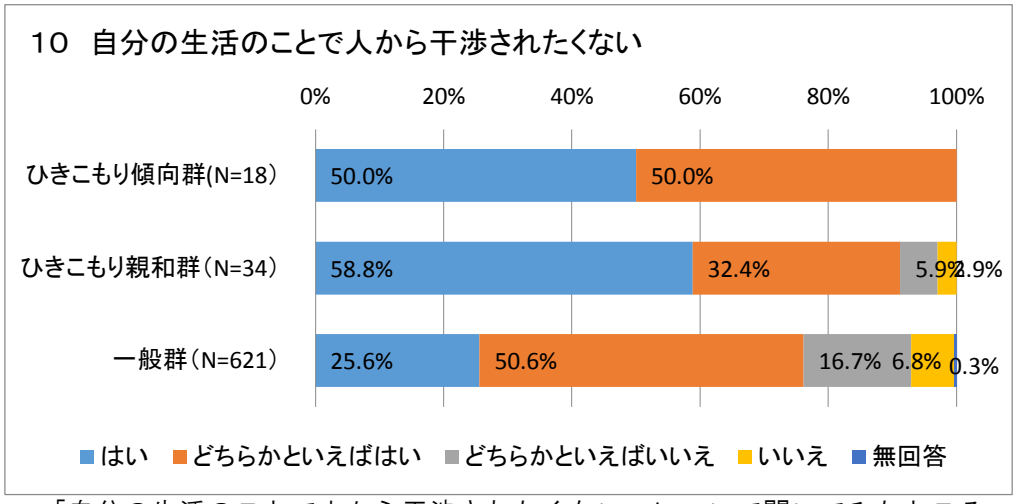
「周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では66.6%、ひきこもり親和群では38.2%、一般群では29.5%であった。ひきこもり傾向群は、ひきこもり親和群と一般群と比べて、他者との間に葛藤が生じたとき解決できる自信が低かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは71.5%、ひきこもり群Ｂでは63.7%であった。



「たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では88.8%、ひきこもり親和群では82.4%、一般群では59.8%であった。ひきこもり傾向群又はひきこもり親和群は、自分のやりたいことについて他者から干渉されることを拒む傾向がある。

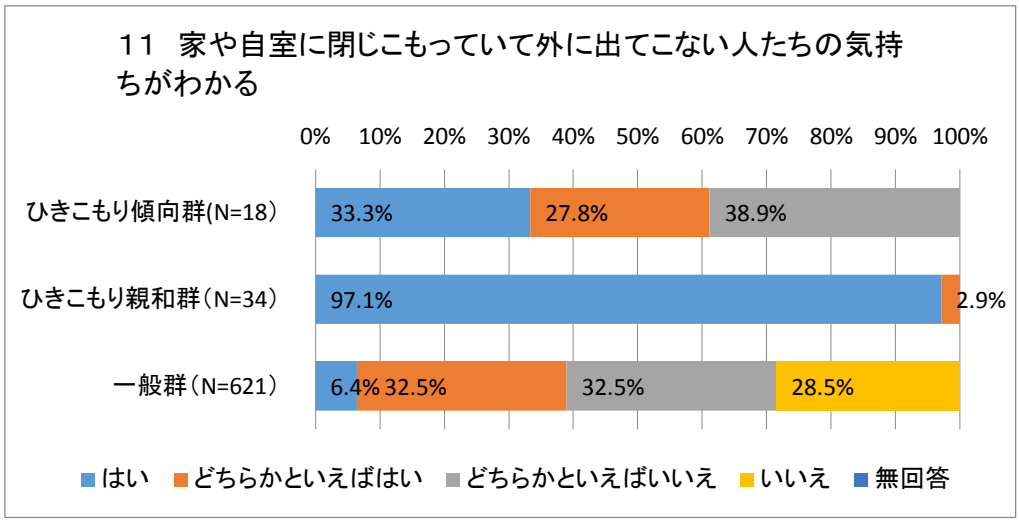
＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは71.5%、ひきこもり群Ｂでは100%であった。



「自分の生活のことで人から干渉されたくない」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では100%、ひきこもり親和群では91.2%、一般群では76.2%であった。特に「はい」ではひきこもり親和群が58.8%と最も高かった。ひきこもり傾向群とひきこもり親和群は、自分の生活に人から干渉されたくない気持ちが特に強い傾向にあることが分かった。

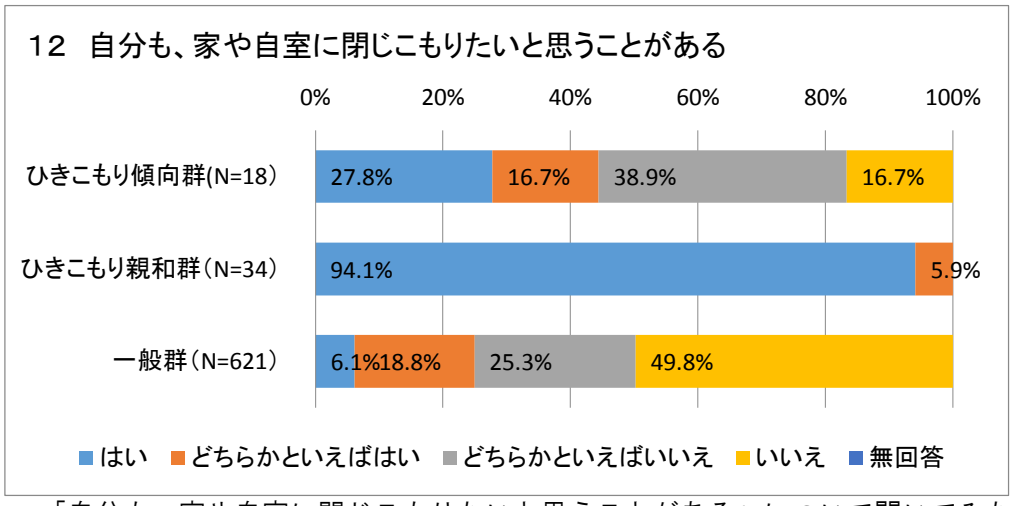
＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばい」と答えた人は、ひきこもり群Ａ、ひきこもり群Ｂともに100%であった。

問２５　１１～１４はひきこもり親和群の定義に使用しているため、ひきこもり親和群についてはコメントせず。



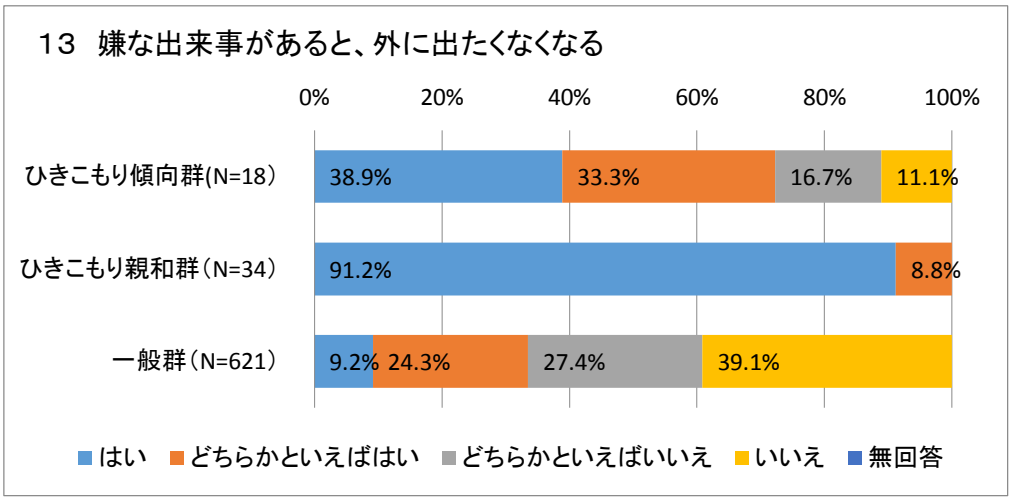
「家や自室に閉じこもっていて外に出てこない人たちの気持ちがわかる」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では61.1%、一般群では38.9%であった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは42.9%、ひきこもり群Ｂでは72.8%であった。



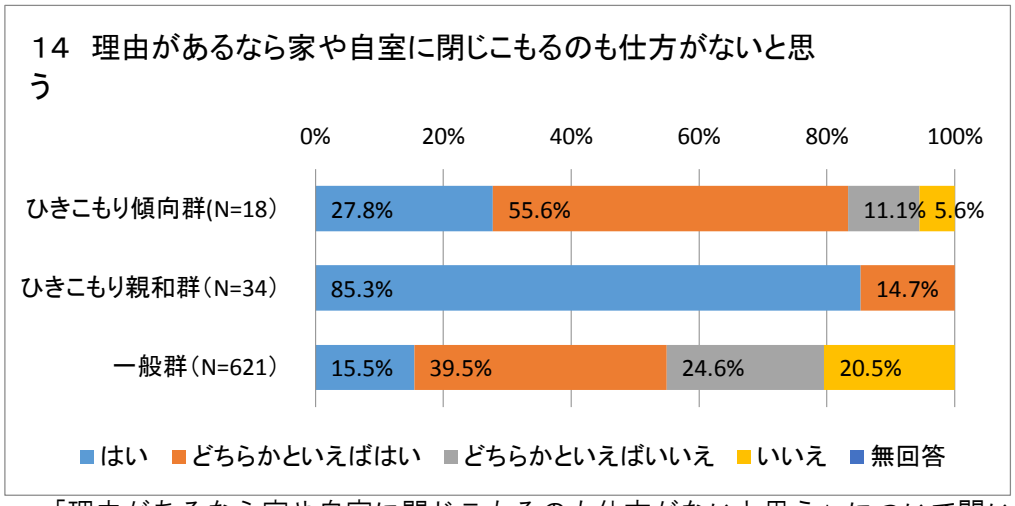
「自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では44.5%、一般群では24.9%であった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは28.6%、ひきこもり群Ｂでは54.6%であった。



「嫌な出来事があると、外に出たくなくなる」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では72.2%、一般群では33.5%であった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは71.5%、ひきこもり群Ｂでは72.8%であった。

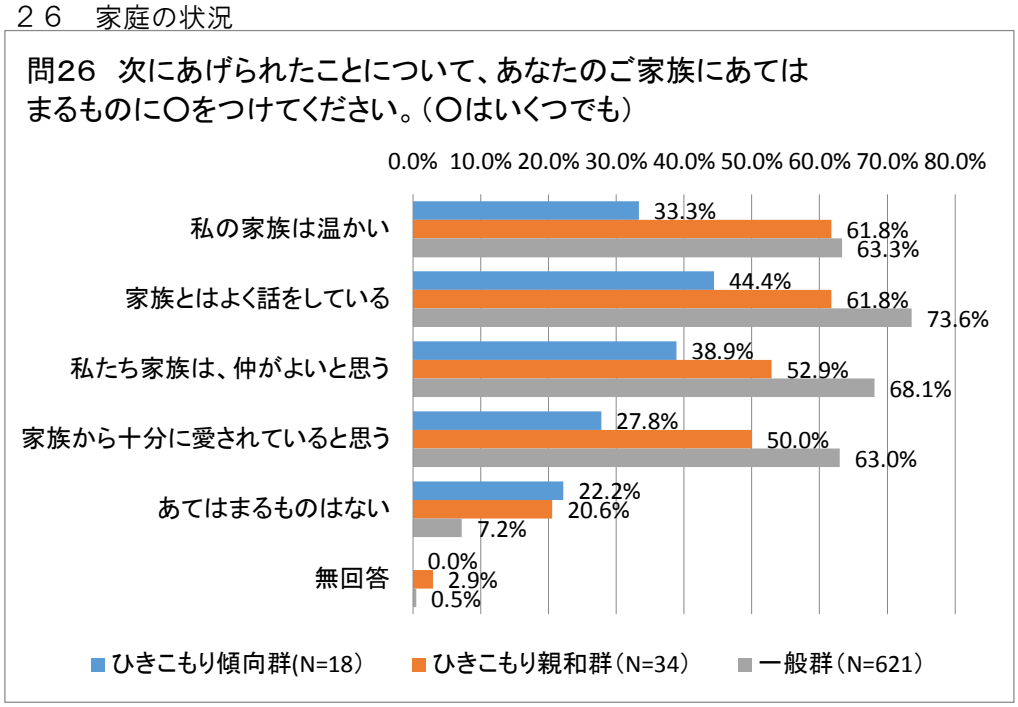


「理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向群では83.4%、一般群では55.0%であった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Ａでは71.4%、ひきこもり群Ｂでは90.9%であった。

８　家庭の状況について

２６　家庭の状況

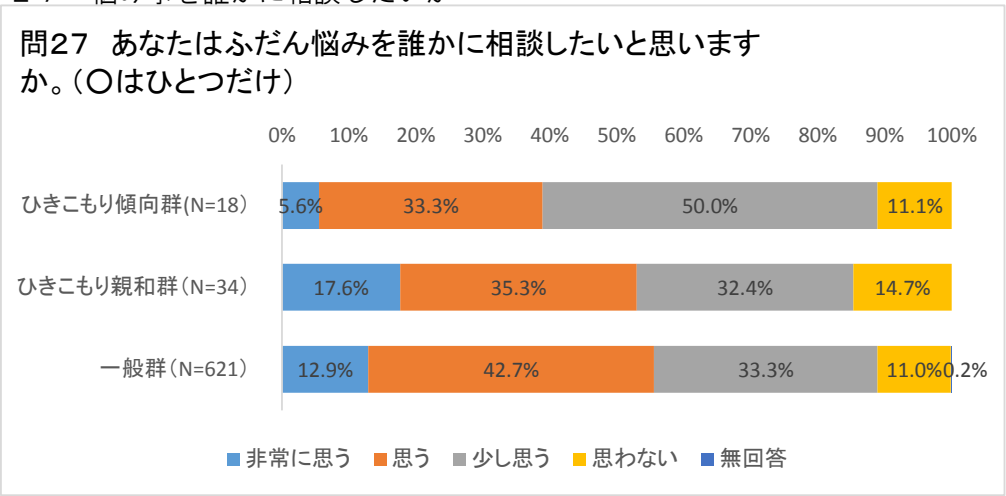


家族についてあてはまることについて聞いてみたところ、一般群で6～7割近くがあてはまるとしているが、特にひきこもり傾向群では大きくポイントが低くなっている。「あてはまるものはない」は、ひきこもり傾向群及びひきこもり親和群で20.0%を超えている。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「私たちの家族は、仲が良いと思う」（群Ａ0%、群Ｂ63.6%）、「あてはまるものはない」（群Ａ28.6%、Ｂ群18.2%）となった。また、ひきこもり群Ｂはどの項目も35.0%を超えており、ひきこもり群Ａと比べると家庭に温かさを感じていることが分かった。

９　悩み事の相談に関すること

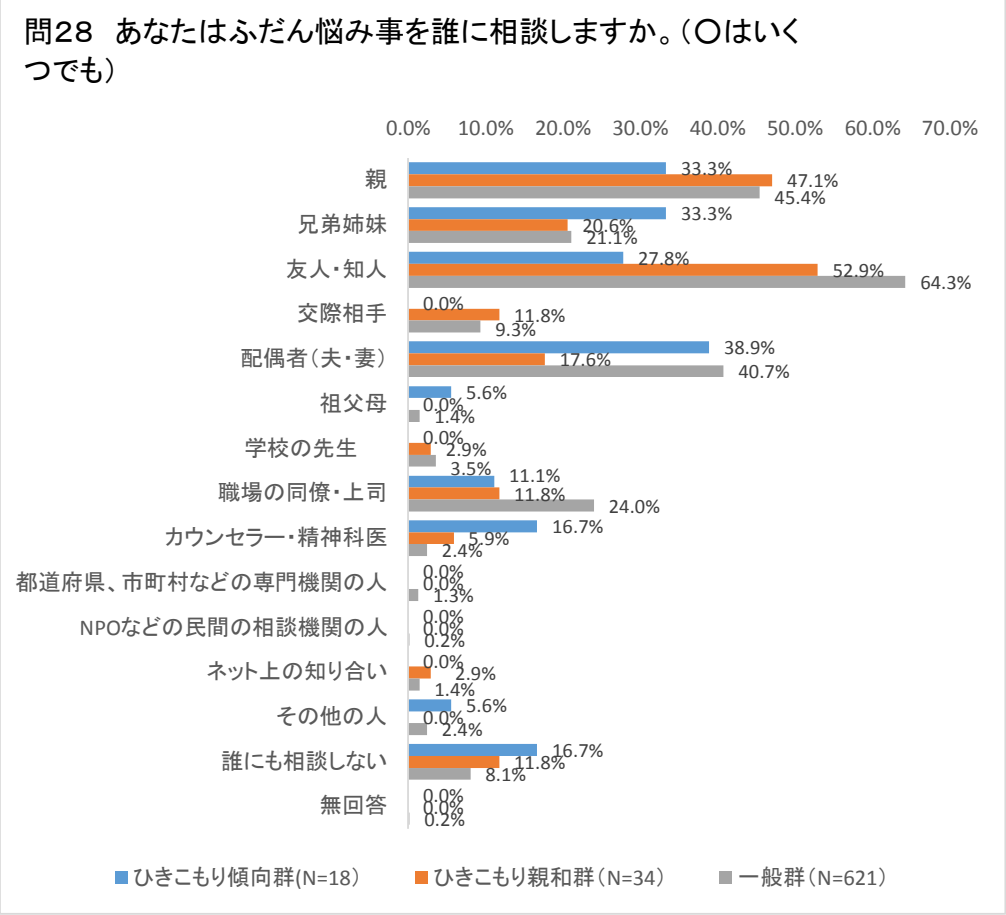
２７　悩み事を誰かに相談したいか



悩みを誰かに相談したいかどうかについて聞いてみたところ、ひきこもり傾向群では「非常に思う」又は「思う」をあげた者は38.9%と少なく、ひきこもり親和群では52.9%、一般群では55.6%となった。ひきこもり傾向群は、誰かに悩みを相談したいという気持ちが他の群と比べる低い傾向にある。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「非常に思う」又は「思う」（群Ａ57.2%、群Ｂ27.3%）、ひきこもり群Ｂは誰かに悩みを相談したいという気持ちがひきこもり群Ａと比べる非常に低い傾向にあることが分かった。

２８　悩みを相談する相手



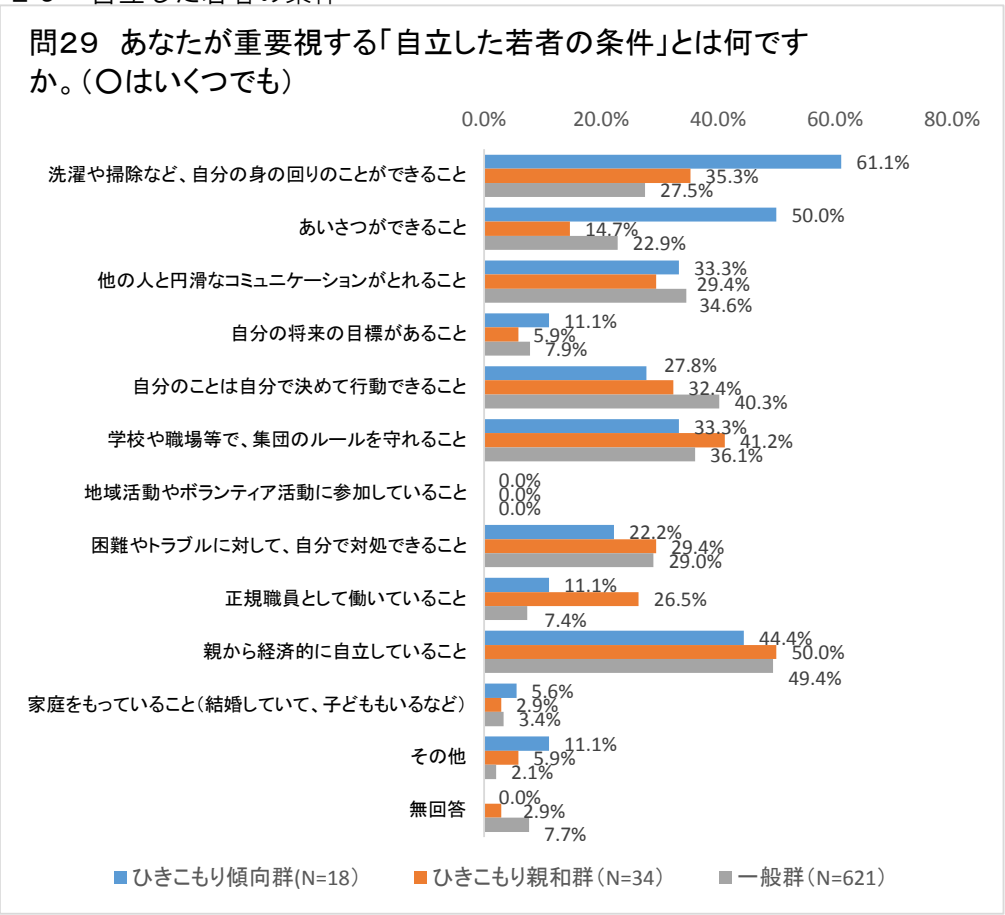
悩みを相談する相手について聞いてみたところ、ひきこもり親和群、一般群で最も多かったのが、「友人・知人」（52.9%、64.3%）で、次いで「親」（47.1%、45.4%）であったが、ひきこもり傾向群では「配偶者（夫・妻）」が最も多く38.9%、次いで「親」及び「兄弟姉妹」がそれぞれ33.3%であった。ひきこもり傾向群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて「友人・知人」（27.8%）が少なく、「誰にも相談しない」又は「カウンセラー・精神科医」が16.7%と多かった。ひきこもり親和群は、他の２群よりも「交際相手」（11.8%）、「ネット上の知り合い」(2.9%)が多かった。また、ひきこもり傾向群、ひきこもり親和群ともに、一般群よりも「職場の同僚・上司」（ひきこもり傾向群11.1%、ひきこもり親和群11.8%）が少なかった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａで最も多かったのが、「親」、「兄弟姉妹」、「配偶者」28.6%で、「誰にも相談しない」も同じく28.6%となった。相談相手は身内に多いことが分かる。ひきこもり群Ｂでは「配偶者」45.5%、次に「親」、「兄弟姉妹」、「友人・知人」いずれも36.4%、「カウンセラー・精神科医」27.3%の順となった。「誰にも相談しない」は9.1%に留まった。ひきこもり群Ｂもひきこもり群Ａ同様、主に身内を相談相手とする傾向がある。

（２）市民の若者に対する意識調査

１　自立した若者の条件に関すること

２９　自立した若者の条件

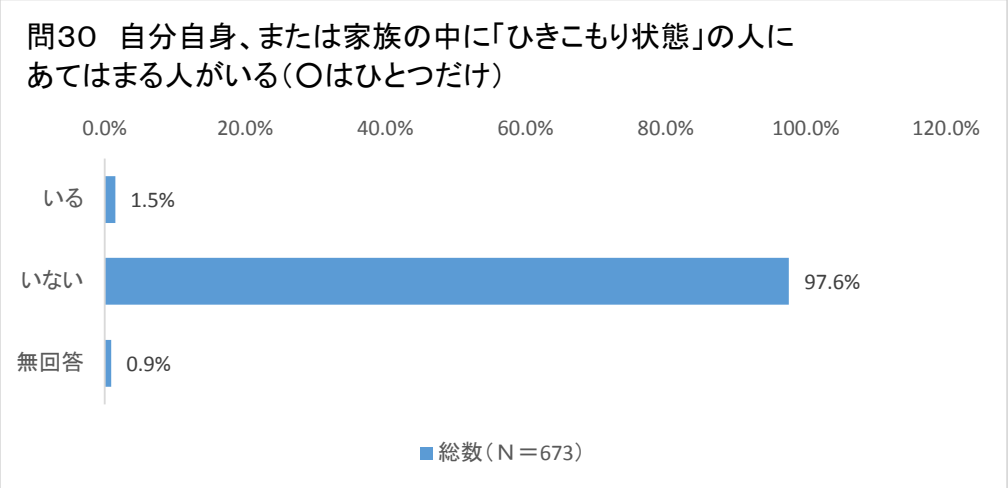


あなたが重要視する「自立した若者の条件」とはについて聞いてみたところ、ひきこもり傾向群では「洗濯や掃除など、自分の身の回りのことができること」61.1%と最も多く、次いで「あいさつができること」50.0%、「親から経済的に自立していること」44.4%、ひきこもり親和群では「親から経済的に自立していること」50.0%と最も多く、次いで「学校や職場等で、集団のルールを守れること」41.2%、「洗濯や掃除など、自分の身の回りのことができること」35.3%、一般群では「親から経済的に自立していること」49.4%が最も多く、次いで「自分のことは自分で決めて行動できること」40.3%、「学校や職場等で、集団のルールを守れること」36.1%となった。ひきこもり傾向群では、「自分の身の回りのこと」や「あいさつができる」など日常生活に必要なスキルを重要視している。ひきこもり親和群や一般群では、「親から経済的に自立すること」や「学校や職場等で、集団のルールが守れること」、「自分のことは自分で決めて行動できること」など経済的な自立や社会性を重視していることが分かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、「あいさつができること」（群Ａ71.4%、群Ｂ36.4%）、「洗濯や掃除など、自分の身の回りのことができること」（群Ａ57.1%、群Ｂ63.6%）、「自分のことは自分で決めて行動できること」（群Ａ42.9%、群Ｂ18.2%）、「学校や職場等で、集団のルールが守れること」（群Ａ14.3%、群Ｂ45.5%）、「親から経済的に自立していること」（群Ａ28.6%、群Ｂ54.5%）となった。ひきこもり群Ａはひきこもり群Ｂと比べて、「学校や職場等で、集団のルールが守れること」や「親から経済的に自立していること」のポイントが低く、自立において経済・社会的な要素はあまり重視していない傾向にある。どちらかと言えば自立に対する概念として集団のルールや経済的な自立よりも自己を中心とした偏った自立意識があると思われる。

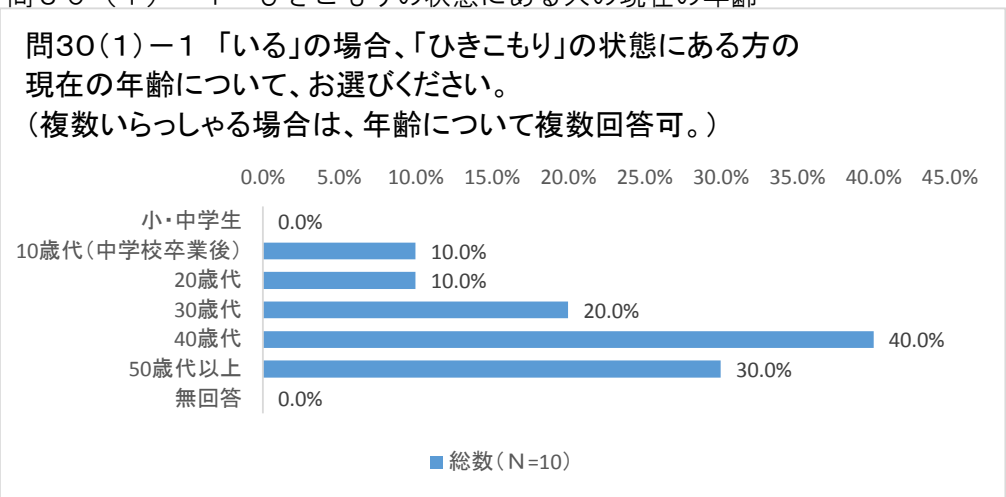
２　ひきこもりと思われる人の周囲の状況に関すること

３０　ひきこもり状態の周囲の状況



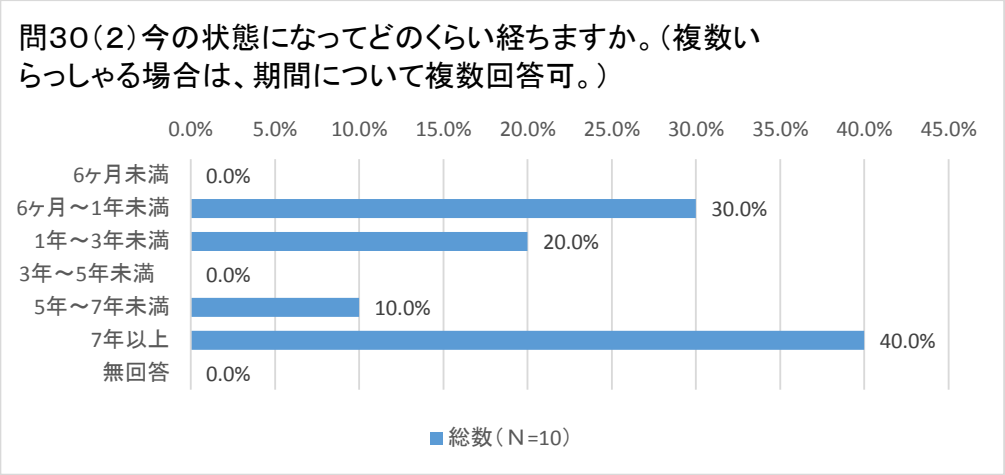
自分自身、または家族の中にひきこもりの状態の人がいるについて聞いたみたところ、「いる」1.5%、「いない」97.6%であった。

問３０（１）－１　ひきこもりの状態にある人の現在の年齢



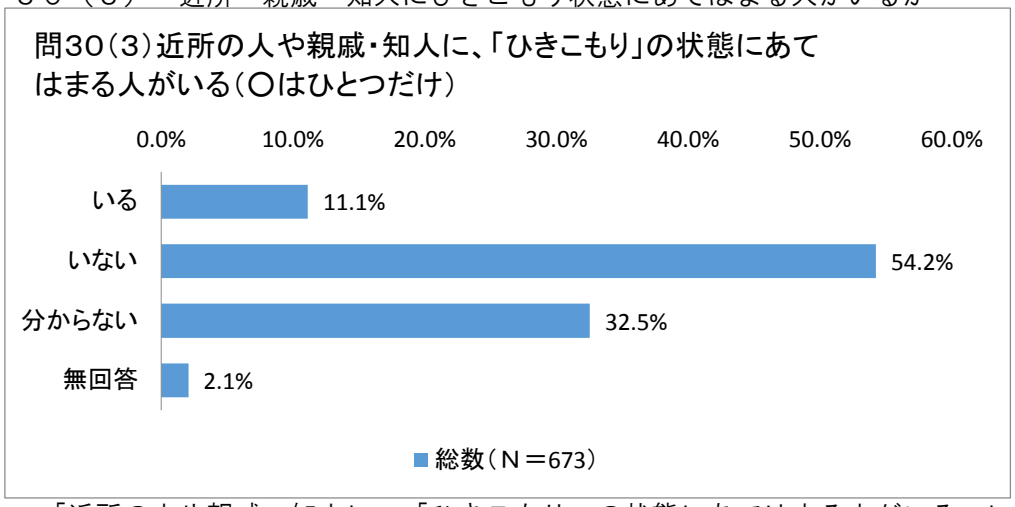
ひきこもりの状態にある方の現在の年齢について聞いてみたところ、「40代」40.0%、「50代」30.0%、「30代」20.0%、「20代」及び「10代」はいずれも10.0%となった。40代、50代が多く、ひきこもりが高年齢化にあることが分かった。

３０（２）　今の状態になってどのくらい経過したか



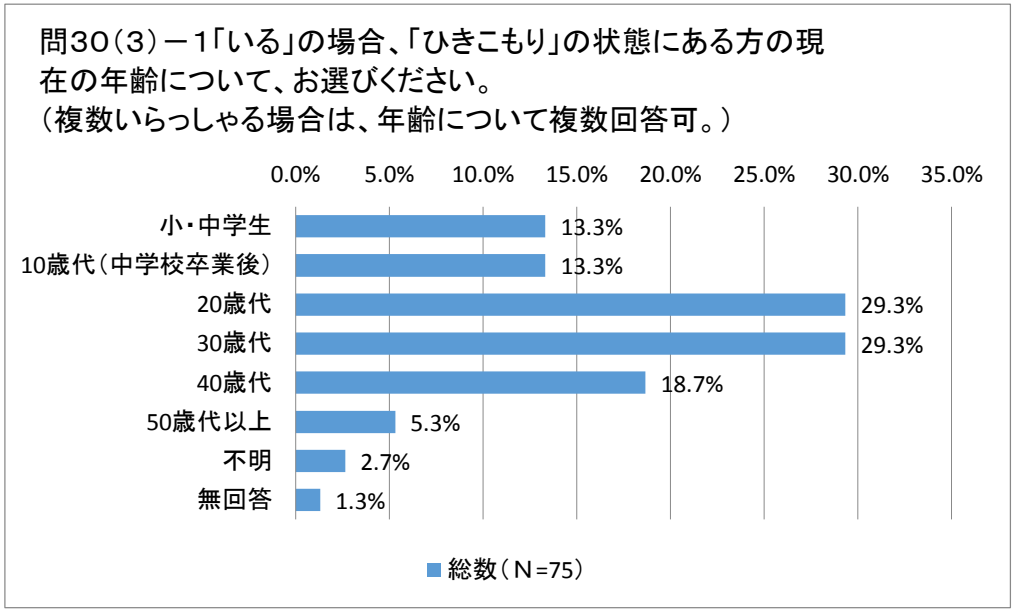
今の状態になってどのくらい経ちますかについて聞いてみたところ、「7年以上」40.0%、「6ヶ月～1年未満」30.0%、1年～3年未満20.0%、「5年～7年未満」10.0%となった。「5年以上」は全体の半数を占める。ひきこもりは長期化傾向にあることが分かった。

３０（３）　近所・親戚・知人にひきこもり状態にあてはまる人がいるか



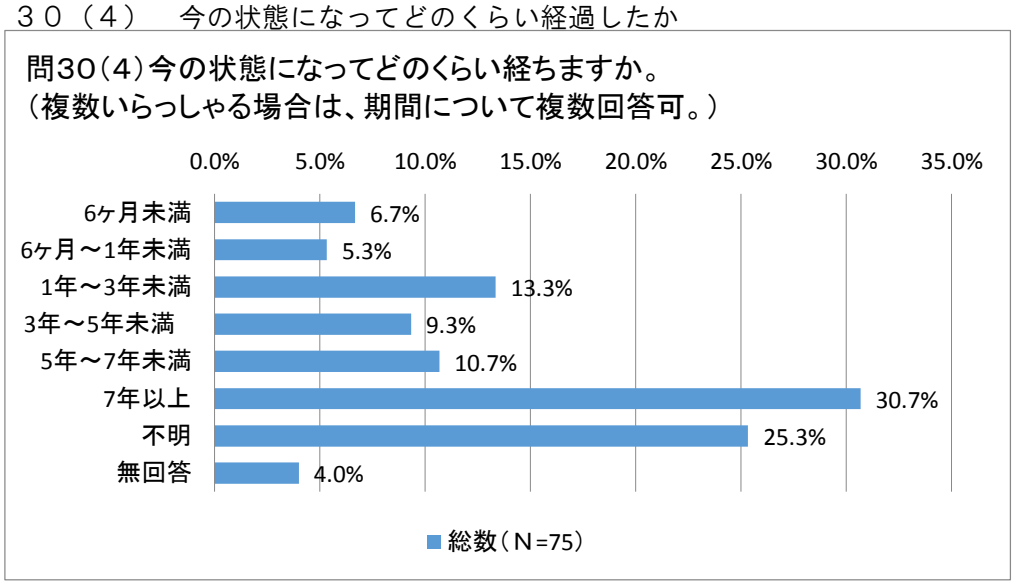
「近所の人や親戚・知人に、「ひきこもり」の状態にあてはまる人がいる」について聞いてみたところ、「いる」11.1%、「いない」54.2%、「分からない」32.5%であった。問30（1）の自分自身・家族も含めると12.6%がひきこもり状態にある人を知っていることが分かった。

３０（３）－１　「ひきこもり」の状態にある方の現在の年齢



「「ひきこもり」の状態にある方の現在の年齢」について聞いてみたところ、「20歳代」並びに「30歳代」がいずれも29.3%、次に「40歳以上」18.7%、「小・中学生」及び「10歳代」がいずれも13.3%であった。20歳・30歳代が全体の約6割を占めることが分かった。

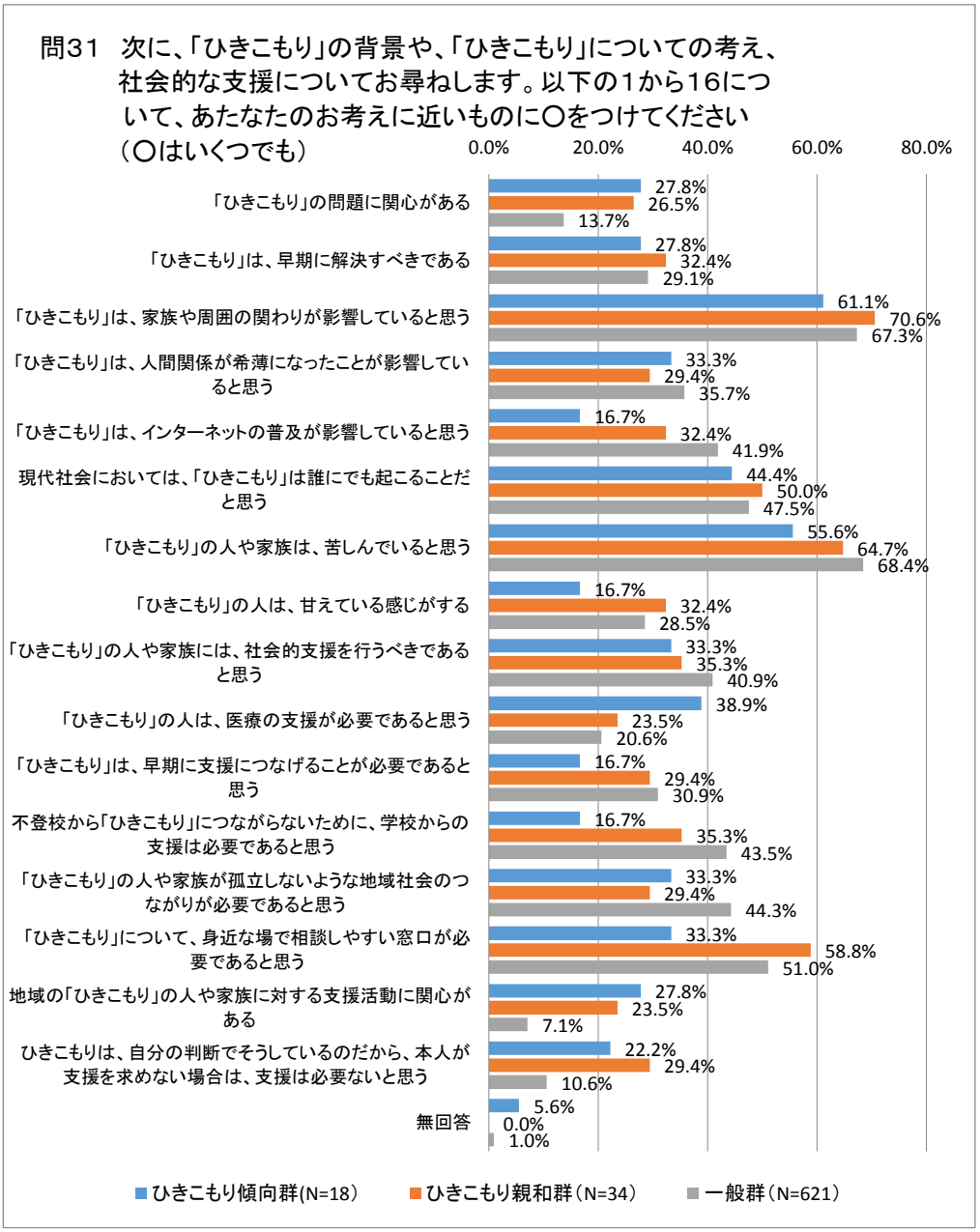
３０（４）　今の状態になってどのくらい経過したか



「今の状態になってどのくらい経ちますか」について聞いてみたところ、「7年以上」が30.7%と最も多く、次いで「1年～3年未満」13.3%、「5年～7年未満」10.7%、「3年～5年未満」9.3%、「6ヶ月未満」6.7%、「6ヶ月～1年未満」5.3%となった。5年以上の人が全体の41.4%を占め、ひきこもり期間の長期化が懸念されることが分かった。

３　ひきこもりの背景や考え、社会的な支援に関すること

３１　ひきこもりの背景やその考えと社会的な支援

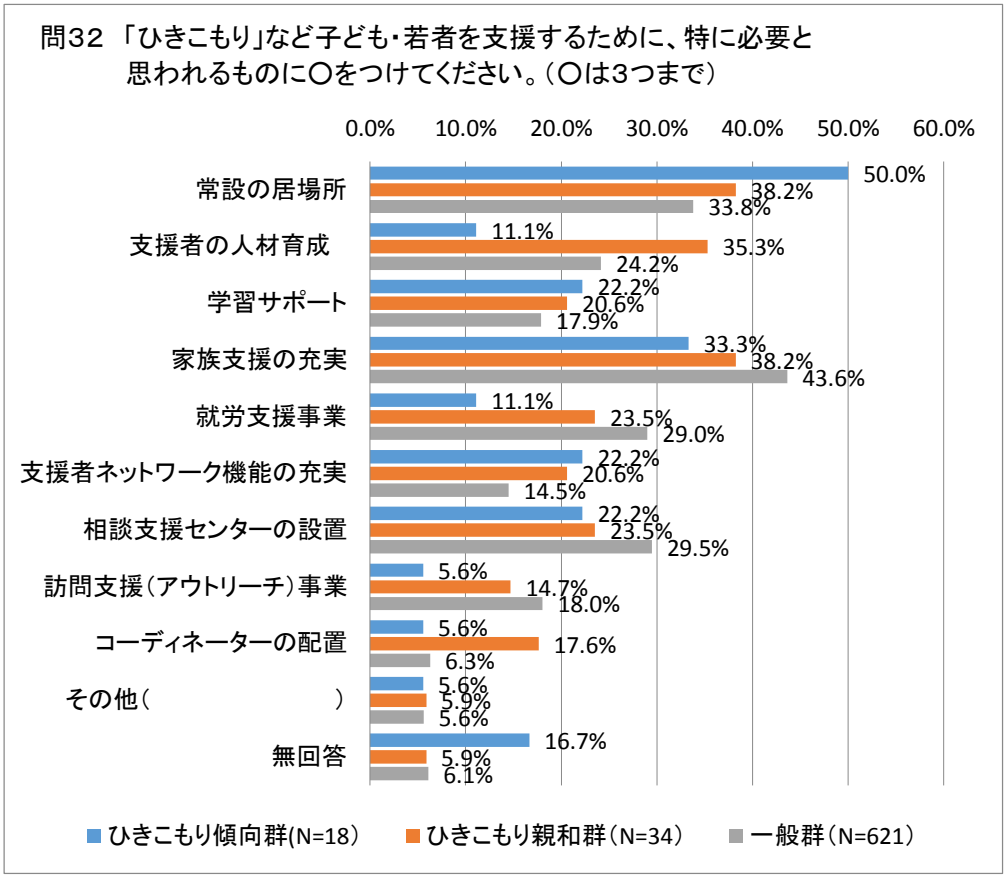


「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援について聞いてみたところ、ひきこもり傾向群、ひきこもり親和群、一般群ともに「ひきこもり」は家族や周囲の関わりが影響していると思う」（61.1%、70.6%、67.3%）、「「ひきこもり」の人や家族は、苦しんでいると思う」（55.6%、64.7%、68.4%）と多かった。ひきこもり傾向群では「「ひきこもり」の人は、「医療の支援が必要であると思う」（38.9%）が他群と比べて最も多かった。また、「「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする」（16.7%）と他群と比べて低かった。一般群は「「ひきこもり」問題に関心がある」が他群と比べて13.7%と最も低かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａでは「ひきこもりは家族や周囲の関わりが影響していると思う」85.7%、次に「ひきこもりの問題に関心がある」、「ひきこもりは、早期に解決すべきである」、「ひきこもりの人や家族は、苦しんでいると思う」、「地域のひきこもりの人や家族に対する支援活動に関心がある」がいずれも42.9%となった。ひきこもり群Ｂでは「ひきこもりの人や家族は苦しんでいると思う」63.6%、次に「ひきこもりの人は、医療の支援が必要であると思う」、「現代社会において、ひきこもりは誰にでも起こることだと思う」がいずれも54.5%となった。「ひきこもりの人は甘えている感じがする」（群Ａ28.6%、群Ｂ9.1%）では、ひきこもり群Ｂの方がひきこもりに対して親和的である言える。

４　子ども・若者の支援に関すること

３２　必要な支援策

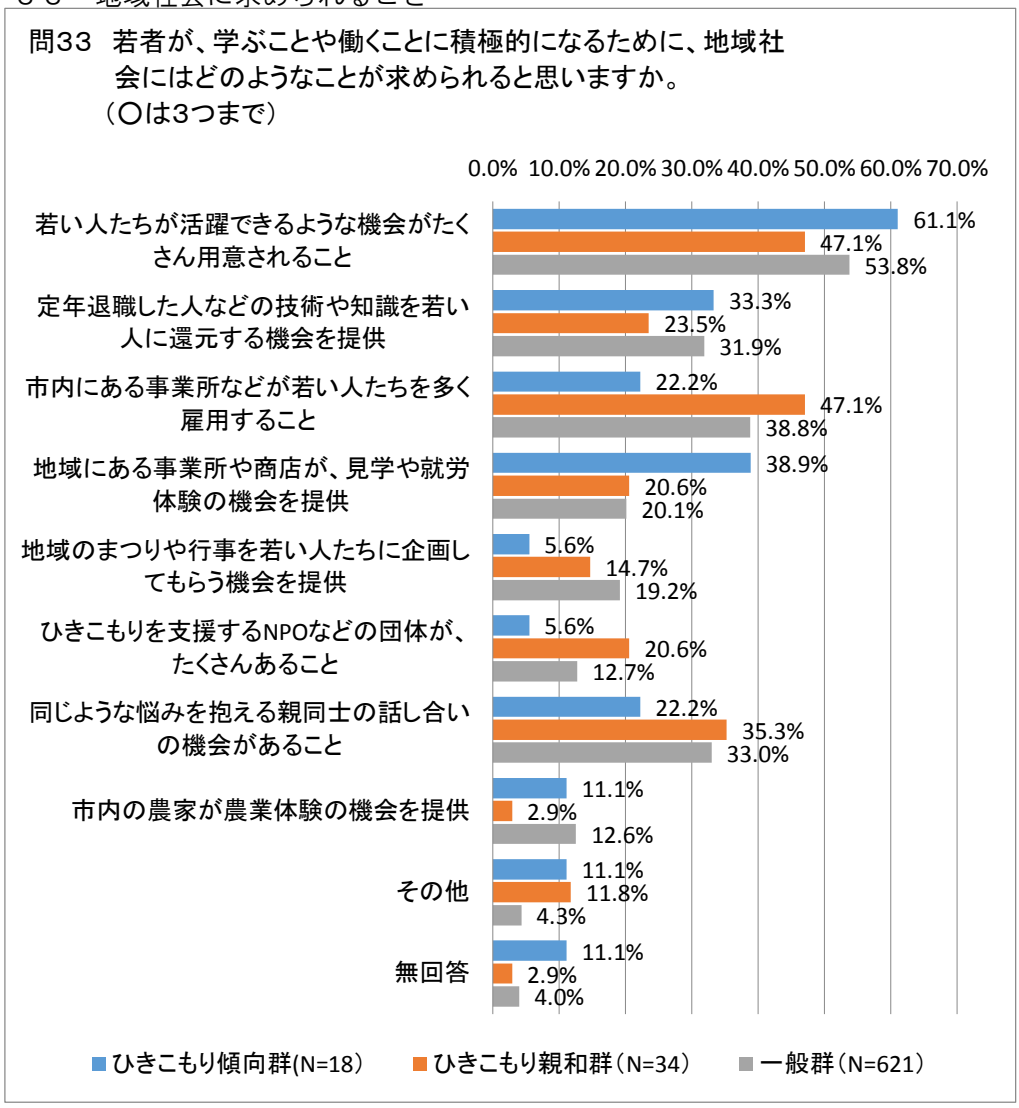


「ひきこもり」など子ども・若者を支援するために、特に必要と思われるものを聞いてみたところ、ひきこもり傾向群では「常設の居場所」50.0%、「家族支援の充実」33.3%、「学習サポート」、「支援者ネットワーク機能の充実」、「相談支援センターの設置」がいずれも22.2%、ひきこもり親和群では「常設の居場所」又は「家族支援の充実」38.2%、「支援者の人材育成」35.3%、一般群では「家族支援の充実」43.6%、「常設の居場所」33.8%、「相談支援センターの設置」29.5%となった。3群いずれも上位に「常設の居場所」又は「家族支援の充実」であった。ひきこもり親和群では「コーディネーターの設置」17.6%と他群と比べて最も多かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａでは「常設の居場所」57.1%、次に「支援者のネットワーク機能の充実」、「相談支援センターの設置」がいずれも28.6%の順となった。ひきこもり群Ｂでは「常設の居場所」、「家族支援の充実」がいずれも45.5%、次に「学習サポート」27.3%、「支援者ネットワーク機能の充実」、「相談支援センターの設置」がいずれも18.2%の順となった。ひきこもり群Ａは、ひきこもり群Ｂと比べて「家族支援の充実」（群Ａ14.3%、群Ｂ45.5%）に消極的である。また、両群に共通する点としては、「支援者の人材育成」、「就労支援事業」、「訪問支援（アウトリーチ）事業」、「コーディネーターの配置」の必要性に対して関心が薄かった。

５　地域社会に求められる役割に関すること

３３　地域社会に求められること



若者が、学ぶことや働くことに積極的になるために、地域社会にはどのようなことが求められるかについて聞いてみたところ、ひきこもり傾向群、ひきこもり親和群、一般群ともに「若い人たちが活躍できるような機会がたくさん用意されること」が最も多かった。ひきこもり傾向群では「地域にある事業所や商店が、見学や就労体験の機会を提供」が38.9%と他群と比べて多かった。ひきこもり親和群、一般群は「市内にある事業所などが若い人たちを多く雇用すること」が47.1%、38.8%とひきこもり傾向群と比べて多かった。ひきこもり傾向群はすぐ雇用ではなく体験・知識技術を伝承される機会を望んでいる一方で、ひきこもり親和群、一般群は雇用を求めておりギャップが生じていることが分かった。

＊ひきこもり群Ａとひきこもり群Ｂとの比較では、ひきこもり群Ａ、ひきこもり群Bともに「若い人たちが活躍できるような機会がたくさん用意されること」（群Ａ42.9%、群Ｂ72.7%）が多かった。また、「地域にある事業所や商店が、見学や就労体験の機会を提供」（群Ａ57.1%、群Ｂ27.3%）ではひきこもり群Ａが多く、見学や就労体験を望んでいることが分かる。また、「定年退職した人などの技術や知識を若い人に還元する機会を提供」（群Ａ28.6、群Ｂ36.4%）や「市内にある事業所などが若い人たちを多く雇用すること」（群Ａ14.3%、群Ｂ27.3%）ではひきこもり群Ｂが高く、技術の伝承や雇用の必要性を望んでいることが分かった。

６　自由意見（グループ分け表記）

（１）社会に対して

■交流	件数
同じ境遇にいる人との交流	3
同じ趣味を持った同士の交流の場	2
学校・仕事以外で地域交流できる場づくり	2
コミュニケーションの機会とその場が減っている	2
社会体験の機会を増やしていく	1
新興住宅とそうでない地域とのコミュニケーションが必要	1
それぞれに合った人との交流を見つけていくことが肝要	1
働く意義を早いうちから体験する機会を準備	1
若者が中心となって、地域を盛り上げて、老若男女交流ができる町を作ってほしい。	1
小　計	14

■場づくり	件数
居場所は自立できる場であてほしい	1
我慢せずに無理なく話せる場所	1
学校以外のシステムが必要で、「誰かに必要とされる」がないと居場所は機能しない	1
若者が孤立しない活動が必要	1
年齢を問わずだれでも気軽に参加できる場	1
若者が活躍する場を作る	1
悩みを打ち明けることのできる場・人が必要	1
インターネットのひきこもり相談の開設	1
小　計	8

■支援の仕組み	件数
地元企業と若者を結ぶ調整役として地元の人材が活躍し、継続的に支援する仕組みづくり	2
若者を応援するネットワークの構築	2
子どもが夢を持てる社会づくり	1
子どもを見守ることのできる環境	1
支援機関につなだり、支援の仕組みを作る	1
支援者の心のケアと指導方法の見直し	1
仕事の支援事業の充実	1
専門家が集まって話し合いのできる場づくり	1
早期に相談・アドバイスを受けれる場	1
ひきこもり支援の専門家の育成	1
ひきこもりに対して周囲が気付ける環境・仕組みをつくる	1
ひきこもりの方を温かく受け入れる環境が必要	1
幼児期の社会環境を充実	1
若者が社会に参加する仕組みを考える	1
小　計	16

■地域社会	件数
小学生の頃から地域社会との関わりを持つ	1
専門家でもなく家族でもない第三者の存在は大切	1
小　計	2

■いじめ	件数
いじめに対する理解を深める啓発活動	1
小　計	1

■子ども・若者に対して	件数
ひきこもりが長期化すれば回復が難しいと思う	3
ひきこもりの原因はいじめやパワハラではないか	3
凶悪事件の報道を見ると、通学や通勤が心配	2
ネットが普及していて、親との会話する時間が少なくなっていると思います。	2
甘えている人が増えている	1
いろいろな受け皿があって、ひとりひとりの存在価値を大切にしてほしい	1
いろんな社会経験の中で、多様な価値観に触れることが大切	1
お年寄りに優しい街も大切ですが、未来のある世代へ光があたるように社会を変えていく	1
家族だけでは解決が難しい課題。医療の支援が必要である	1
家族への指導・助言をする必要がある	1
苦しんでいる若者が沢山いることを分かってほしい	1
個性・希望を尊重して接することが大切	1
時代の急速な変化に対応できず、若者が成長していくことが心配	1
自分の未来は苦しいことだけではないことを知る機会を増やす	1
社会に「余裕」がほしい	1
少人数制など、みんなが分かる授業を目指してほしい	1
食生活の大切さを伝える	1
ひきこもりに対する周囲の理解が必要	2
弱い立場にある方に心を配ってほしい	1
人は人と必ず関わらないといけないという固定観念が人を苦しめている	1
ひきこりから抜け出せる機会を作ってほしい	1
ひきこもりを生み出している社会に問題がある。ひきこもりゼロの社会を目指すできだと思う	1
ひきこもりが生まれない取り組みが必要	1
友だちを大切にするこころを育てる	1
そっとしておいて欲しいです。	1
小　計	32

合　計	73

（２）家族に対して

■支援	件数
家族が自信を持って子どもと接することができるように応援する仕組み	1
家族支援を中心に、学習・就労等の支援があると充実する	1
困難を抱える方々への経済的な支援、働くための支援体制の整備	1
家族の支援を最優先にすべきでは。	1
家族に対する働きかけが大切	1
親やその周りの環境を整備する	1
小　計	6

■体験・交流	件数
家族と当事者の方の経験交流の機会	2
悩んでいる方が社会とつながることができるようにする	1
小　計	3

■意識	件数
親と子の関係性を築くための親学級を増やすべきではないか	1
親の意識を変えていく取り組み	1
小　計	2

■その他	件数
生きていき力を育む大切さを教育しなかった親に問題がある	2
地域の中で仲良くできず孤立している人もいる	1
家族の愛が伝わっていないのでは	1
小　計	4

合　計	15

（３）学校に対して

■支援者の専門性	件数
学校の中に専門相談員がいるといい	1
専門的な知識と技術を持った人が必要	1
先生のレベル向上	1
福祉・医療現場の人材育成の実施	1
小　計	4

■教育	件数
学校教育が大事	1
道徳教育の充実	1
学校教育機関がしっかりしてほしい	1
社会の最低限のルールを子どもの頃から指導をして欲しい。	1
小　計	4

■ＳＮＳ	件数
ＳＮＳのいじめなど、サポート体制の充実	1
小　計	1

■その他	件数
小学校は歩道のある道を通学路に設定する	1
小　計	1

合　計	10

（４）若者に対して

■場づくり	件数
若者同士が集まれる場が少ない、親しみを持てる場づくりが大切	1
居場所がないのではないか	1
若者が集うことのできるイベント	1
若者が集まりやすい商業施設を増やす	1
小　計	4

■他者との交流	件数
コミュニケーション力に乏しい若者が多い	1
他者と交流することは大切	1
世代による十代などは自分の意思を伝えづらい気がする。	1
集団生活から学びを得る	1
小　計	4

■仕事	件数
義務教育から仕事に対する考え・イメージできる機会が必要	1
小　計	1

■期待	件数
若者に地域を支える人材になってほしい	1
小　計	1

■その他	件数
あいさつができることが大切である。	2
インターネットの普及などで生活が窮屈	1
自分がどう生きていくかが大切	1
自分で行動できない若者が多い	1
外の世界を知る大切さ	1
強く生きることを伝えるべきでは	1
動物セラピーも効果的ではないか。	1
東北に行き、被災者支援の手伝いをしたらどうか	1
ひきこもりの方がどのくらいいるのか	1
ひきこもりは理解できない	1
目標を持つ大切さを教える	1
もっと個人がしっかりした方がいい	1
夢・希望を持つ若者が少ない	1
若者に責任感を持ってもらうための環境を整える	1
若者を支援することを実現してほしい	1
生活保護に頼らない、自立心を育てる。	1
小　計	17

合　計	27

（５）仕事に対して

■支援体制	件数
就労意欲のある方に働くことのできる場を確保	2
若者に働くことのできる場を提供する	2
職場体験の機会と相談窓口の設置	2
相談窓口や就労支援などをコンビニと連携しては	1
雇用を増やすべきではないか	1
仕事に対する支援の必要性	1
ブラック企業が減り、労働意欲の向上を図る	1
仕事の支援、若者の仕事を優先にすべき	1
小　計	11

■企業	件数
企業がもっと正規雇用すべきではないか	1
若者を雇用する企業を応援する仕組み	1
小　計	2

合　計	13

（６）啓発に対して

■情報発信の手段・認知の実態	件数
広報やホームページ等で分かりやすく啓発する	11
取り組みが分からない	3
ひきこもり・不登校問題は知られていない	1
小　計	15

合　計	15

（７）行政に対して

■様々な意見	件数
市外の人が足を運ぶためのショッピングモールの建設	4
税金の使い方を考えるべきではないか。	2
地域医療の向上と充実	2
子育て支援を充実して欲しい	2
具体的な施策を検討すべきではないか	2
冷房の設備を良くしてほしい	1
小中学校に冷暖房を整備、耐震性は大丈夫か	1
公共施設などの時間延長・設備の充実	1
公共施設周辺の喫煙、取り締まりが悪い。	1
若者が働きたくなるような施設を誘致する	1
大規模商業施設の誘致による雇用の拡大の促進をした方がいい	1
駅前開発	1
市活性化に若者のアイディアを活用する	1
子ども遊び場を作る	1
待機児童を減らしてほしい	1
難しい悩みでも丁寧に向き合ってほしい	1
丁寧に相談できる場があるといい	1
海外、県外の人たちが知多市に寄りたくなるようなまちづくり	1
地域のスポーツ団体へ若者の参加を促す	1
知多市職員のマナーを正しく	1
住みたいと思われる街に取り組むべき	1
地域活動支援センターを知多市に作ってほしい。	1
青少年会館を遅くまで開館してくれてありがたい	1
「ちた塾」のような生涯学習をもっと増やして開いてもらえたら嬉しい。	1
弱者救済をするなら幅広い視点で行うべきだ	1
赤字なら身を切るべきだ	1
市政各方面において、ふゅうちゃん、知多娘等「知多市」をピーアールする為に企画されたコンテンツを多方面において展開	1
市でどのように取り組んでいるのか見えてこない。	1
市には特に期待していないので、大丈夫。	1
小　計	36

合　計	36

（８）その他

■様々な意見	件数
ひきこもりの方の実態を把握して、学業や仕事につなげる	1
地域活動に参加したいと思うが、役割が分からない	1
アンケートの活用について	1
年齢の幅が広すぎてアンケートの内容に少し無理があるように思う	1
子供から大人まで楽しめる行事をたくさん作って欲しい。	1
地域のイベントに積極的な人が参加したら、そうでない人が参加しずらくなる	1
大変なアンケート	1
虐待を受けたことがあった	1
進捗状況が分かるような仕組みがあるといい	1
柔道を盛んにしてほしい	1
ゆいの会はいい。体育館の夜のスポーツも知っているといい	1
子どもの送り迎えや習い事などで毎日でかけます。	1
頑張ってください。	1
小　計	13

合　計	13